

SCOUTING

スカウティング

No.505

1995

6

特集「危機管理」から見た安全

連載開始! ボーイスカウト隊プログラムヒント



財団法人

ボーイスカウト日本連盟

18th World Jamboree Holland 1995

第18回世界ジャンボリー (1995.8.1~8.11 オランダ・ロンドン)

JOIN IN JAMBOREE



第18回世界ジャンボリーは、1995年8月1日から11日までオランダのドロンテンで世界100か国以上の国と地域から30,000名以上のスカウト・ガイドが参加して開催されます。

このジャンボリーへ参加できるスカウトは限られていることから、皆が参加できるものにしようと思ったのが、ジョイン・イン・ジャンボリー(J・I・J)です。日本連盟は平成7年4月1日から平成8年3月31日までの1年間をJ・I・Jの期間として様々な関連プログラムを実施します。

※ジョイン・イン・ジャンボリー関係の記念品は在庫切れ次第順次取扱いを中止します。

J・I・Jを記念する各国スカウト連盟の需品をお届けします。



■オランダ・スカウト連盟製

18WJステッカー 品番74060 ￥250

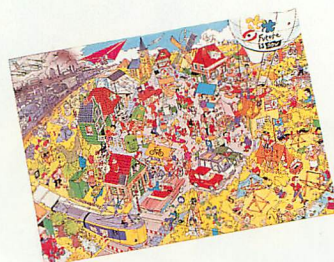
■18WJタオル
品番74023 ￥700



サイズ：33×85cm
パイルの長い高級タオルに18WJのマークを刺しゅう。

■18WJテレホンカード 各￥800
50度数。国内用。非課税品。

J・サイト 品番74051



風車 品番74045



■ワッペン J・I・J(織製)
品番74001 ￥350

サイズ：8×6cm 18WJのロゴマークにJ・I・Jの組み合わせ。(デザイン見本)



■チーフリング J・I・J
品番74017 ￥450

サイズ：3.9cmφ エポキシ樹脂仕上げ。(デザイン見本)

■ピンバッジ J・I・J
品番74039 ￥300

サイズ：3cmφ
エナメル・樹脂仕上げ。
蝶バネ式。(デザイン見本)

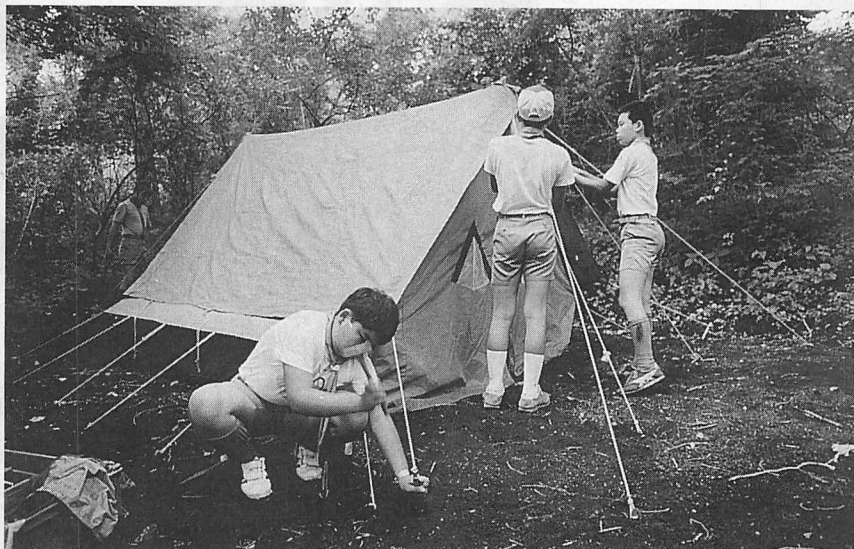


誌上ショッピングご利用にあたってのお願い

●ご注文は本誌とじ込みの払込通知票をご利用ください。お電話によるご注文はお受けできませんのでご了承ください。
●登録番号(10桁)および名前のフリガナを必ずご記入ください。●荷造り送料を含めてご送金ください。

★需品の表示価格には消費税は含まれておりません。外税として別途申し受けますので、ご注文の際は加算してご送金ください。

6 1995
JUNE



特集

「危機管理」から見た安全

		4
活動	ボーイスカウト環境保全実践活動 水を守る	9
情報	富士スカウト進級者一覧	10
連載	人物逸話事典 ¹⁵⁴ 石川啄木 太田信行／伊藤展安	14
連載	第18回世界ジャンボリー情報④	16
情報	第7回日本アグーナリー情報	17
連載	LISEノート 地球環境への影響を抑えたスカウト活動の提案①	18
組織	組織拡充への道 ケーススタディその1	20
連載	ローバー通信「誌上ローバームート⑰」	22
活動	スカウトの日	25
投稿	あなたの意見を聞かせてください	26
情報	NEWS BSN 日連情報	28
情報	資料センター 新着図書	30
情報	トピックス	31
連載	隊指導者のための「スカウトの信仰への導き」	31
発表	第22回全国ボーイスカウト写真コンテスト 青年・成人の部入賞作品発表	32
紹介	ボーイスカウト運動のために ～維持会員加入のご案内～	37
連載	ボーイスカウト隊 プログラムヒント①	41
SHOPPING	誌上ショッピング	2
NEWS	需品部ニュース	43



リビア・スカウト・ガールガイド運動
(社会主義人民リビア・アラブ国)



セネガル・スカウト連合
(セネガル共和国)



モリタニア・ボーイスカウト連盟
(モリタニア・イスラム共和国)



モロッコ・スカウト全国連合
(モロッコ王国)

危険・損害・事故の発生を最小限に食い止めるために…

特集



「危機管理」から見た安全

「危機管理」から見た安全

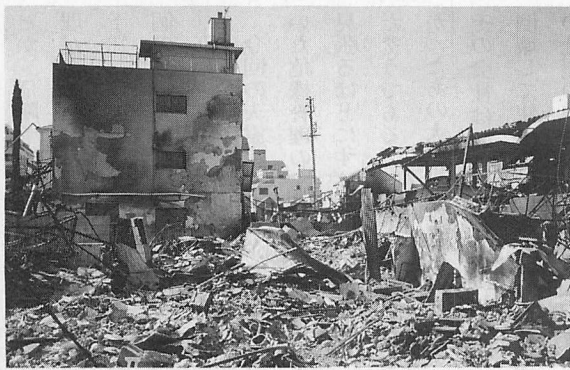
日本連盟健康・安委委員 池田金弥

これまでも指導者の皆さんは、スカウト活動を行うにあたって、「安全」を最優先に考えて活動してこられたことと思う。その際、危険予知に重点をおいてどうすれば事故が起らないかを考え、事故防止対策を中心に安全対策を行ってこられたことだろう。「安全入門（日本連盟発行）」の中でも危険予知に重きをおき、危機管理についてはさらっと流してきた感があった。しかし、阪神大震災をきっかけに、事故が起こってしまったからどうするかということも考えていかななくてはならないことに我々は気が付いた。もちろん危険予知は「安全」であるためには必要不可欠なものであるが、ここでは危険や損害・事故の発生等を最小限に食い止めるためにどう対応するのが最適かということ进行管理する「危機管理」から見た安全について考えてみたいと思う。

安全と危機管理

安全については、私もふくめて過去幾度もいろいろな方々がいろいろな立場で書いてこられた。いまさらという気がしないでもないが、少し観点を考えてみては、という話がある。筆をとってみることにした。これはあくまで私見である。この私見を叩き台にして考えていただければと思う。

いうまでもなく、今度の阪神大震災では数十秒の間に多数の人たち（我々スカウト仲間を含めて）の尊い



命が失われたし、日頃から慣れ親しんだ街の姿も一瞬のうちに一変させられてしまった。いまさらながら自然の力の大きさをまざまざと見せつけられた驚異の瞬間であった。そしてその景色は、かつての東京大空襲の直後と全く同じような景色であった。瞬間、わたしはこう思った。「震災のような天変地異は戦争と同じだ！この復旧は臨戦体制であらなければならない」と。ともあれ、あらためてこの震災で亡くなれた方々のご冥福と被災された方々の一日も早い再出発の日を祈らずにはいられない。

危険予知の範疇

スカウトの安全活動のなかで危険予知は重要な命題であり、欠くべからざる目的条件である。そうして、どうも安全はその時点が終点となっていたようである。というよりは危険予知の範疇に危機管理があればいいと考えていたのである。ところが今回の震災を経てみて、その考えの甘さに気が付いた。

危険予知の範疇に危機管理がある

◆ キャンプで起こりやすい事故について具体的に考えてみる

【例】「ナタで切った」

まず最初に、「なぜこのような事故が起こるのか」を考える。

① 薪割りのときナタを持つ手に軍手をはめたためすべった

② 手入れが悪く柄が腐っていて刃がとれた

③ 使用後サククに入らずに放置しておいたところに転んだ

④ 疲労のため集中力がおちボンヤリしていた

などいろいろな原因が考えられる。これらの原因を分析し、「ナタで切った」という事故が起こらないようにするためにどうするかを考え実行する。これが危険予知に対する安全対策である。例えばこの場合は、

① ナタ使用時の軍手の着け方という野営知識を事前に教える

② 使用前に点検をし、整備を行う

③ ナタの使用法、管理方法を教える

④ ナタの使用法・管理方法が正しくできているか監視する

⑤ スカウトの顔色等チェックし、疲労と体力を考えて適度の休憩時間を与える

等が考えられるだろう。

ここまででは、今まで指導者のみなさんは常に考え、実行されてこられたことと思う。では次に、事故が起こってしまったらどうするか。

起こってしまった事故に対して損害等を最小限にするにはどうすればいいのかが、考えていただきたい。



スカウトがナタで手を切った

止血法による手当をする

【誰がするのか】

◎ スカウト・指導者全員が止血法を知っており、かつ実行できる
よつ訓練しておく。

【直接圧迫止血法の際に必要な滅菌ガーゼはどうするのか】

とか、危険予知の延長線上に危機管理があるという考え方よりも、危険予知と危機管理とは両立していて別個の分野である、と考えたほうが良いのではないだろうか。

今回の大震災である企業のもつていた危機管理のマニュアルには目を見張るほどにすばらしいものがあつたそうである。一般では想像もしなかつたあの震災の発生に対応して、その会社はいち早く行動を起こし、倒壊して使用不能におちいった自社の社屋の修復体制を確立したのみならず、すばらしい支援体制をしいて避難民の援助活動を開始したそうである。このように考えてくると危機管理は危険予知の延長線上にあり、その範疇にあるというより、むしろ独立したものとして策定しなくてはならないと思う。

神戸の悲劇は文字通り尊い犠牲であり、この犠牲を犠牲だけに終わらせては申し訳ない。口幅ったいことを言うようではあるが、行政も最大の目的であり究極の目的である民衆の生命の安全と生活安全の確保に全力を上げる努力をしてほしいものである。

安全のためにある規制がなぜか民衆の首をくくることがあつては有害と言われても仕方がない。同様に我々の考え方も「行政に全面的に頼りきりになる」という姿勢から自らができる範囲で自衛努力することを考えねばならない。安全を守る代価は必要経費であり、金のかかるものという考えを持たねばならない。安全は「ただ」では得られないということをはつきりと自覚する時期にきている。

危機管理に必要な事項

危機管理を策定するにあたってはいくつかの必要事項が考えられる。

1. 人命の安全対策

これは最優先課題であり、まずこのことに方策を集中しなくてはならない。

- (1) 建築物の安全度の判定
- (2) 出火しやすい箇所の点検と防火設備の点検
- (3) 消火体制の確立と日常の訓練
- (4) 救命・救急・病院への移送手段と連絡方法

◎救急箱を用意し、その中に常備しておく。

【救急箱はどこにあるのか】

◎安全係の副長が持つこととする。

【救急箱に滅菌ガーゼがなかったらどうするのか】

◎個人装備の三角布を使用する。

◎救急箱の中身をキャンプ前に整備しておく。

病院へ行く

【誰が連れて行くのか】

◎隊長は隊を離れられないので副長が行く。

【副長が一人抜けたあとも残っているスカウトたちの活動は計画したプログラムのとおり活動できるか】

◎指導者の数が足りないときは保護者に手伝っていただく。

【どうやって行くのか】

◎背負って行く。
背負って行ける体力を身につける

いろいろな搬送法を知り実行できるよう訓練しておく

◎歩いて行く。



・キャンプ地の近くの病院の所在地を確認しておく

◎車で行く。

・車はどこまで入れるのか確認しておく

・いつでも動かせる車を用意しておく

・指導者全員が運転できることが望ましいが、少なくとも安全係の副長は運転できる人にする

◎タクシーで行く。
・タクシー会社の電話番号を確認しておく

・携帯電話を持つこと

・一番近くの電話を確認しておく

・どこまで迎えるにこれるか確認しておく

【病院は開いているか】

◎開院時間を確認しておく。

「危機管理」から見た安全

「ボーイスカウト安全入門」

ボーイスカウト日本連盟発行

定価 八〇〇円

危険、事故、安全についてわかりやすく書かれている。スカウトたちの命を預かる指導者の必読本といえるだろう。



「野外活動の安全Q&A」

ボーイスカウト大阪連盟発行

定価 八〇〇円

キャンプ地の選定と準備、火・燃料、保険等二項目、一二の質問に対して具体的に答えている。野外活動を主とするボーイスカウト指導者の実用書としてご利用いただきたい。(スカウティング 四月号三七頁参照)



- (5) 避難所の仮設→指定避難所への移動
2. 情報収集とその方法

阪神大震災でも「自分の周辺がどうなっているか、どこに行けば安全なのか」がわからず不安だった」と聞く。できれば最新情報が得られるような工夫が欲しい。被災者が被災直後にほしいのは、どの地方はどうだということよりもどこは燃えているから行って大丈夫だここが安全だというような情報である。これは行政に行ってもらいたいことの一つである。

- (1) 日用品を頼らないこと＝携帯器具とその電池の用意

屋内電気を必要とする情報収集機器は家が倒壊して屋内電気の使用が不可能な可能性が高いため、あらかじめ除外し、電池で作動する情報収集機器を準備する。同時に予備電池も準備する。

- (2) 一県全土にわたるような広域震災

はまれである。そのためにも情報収集が必要。状況によっては隣接市町村の機能が正常であることもある。

3. 訓練

- (1) 羅災家屋からの脱出訓練

◎ 定休日を確認しておく。

◎ 外科、内科等の別を確認しておく。

◎ いつでも診療してもらえる救急病院を確認しておく。

診療してもらおう

【治療費をどうするか】

◎ すぐに使えるお金(予備費)を準備しておく。

◎ 安全係の副長は予備費を預かっておく。

◎ スカウト傷害保険に加入しておく。

【保険証はどうするか】

◎ 保険証のコピーを持参させ、個人装備の中わかりやすいところに入れておくように指導するか安全係の副長がまとめて預かっておく。

◎ 事前に近くの病院へ行き、「コピーでも保険として扱ってくれるか確認しておく。」

【誰に連絡するのか】

◎ 一番最初誰に連絡するのか、在宅連絡係は誰かを決めておく。

◎ 緊急時連絡網をつくらせておく。

◎ 保険金の支払いにもかかわるのだから、事故通知をしっかりと行う。

◎ 何を報告するのか、項目を明確にした報告書の形式をつくらせておく。

◎ どんなに小さい事故でも、将来に向けて予想もしない事が起こることも有りうるので保護者への事故報告をしっかりと行う。



このように、起こった事故への対応が最適かということ管理することが危機管理である。ここでは「ナタで切った」という例で考えてみたが、これの他にも工具・刃物・火・燃料・害虫・天候・地形・地勢・食品・水等にかかわる、キャンプで起こりやすい事故についてもしっかりと危機管理を行っていただきたい。

連絡・報告の

このように危機管理を行っていき、

(2) 発火点の点検と消火訓練
(3) 被災地から離脱しシミュレーション訓練

4. 即座に自由に使用可能な現金を含めた資金の備蓄と準備が必要。危機管理は総合総力である。

5. 資材・生活必要品の備蓄（五日間）。担当者以外の人にもわかるよう整理整頓。備蓄場所は全員周知し、簡単な施錠をする。

6. 周辺地域との連携
周辺地域との連携・救援・支援体制の確立。（水路・空路があれば理想的で陸路は除外して主力としない）
平生から連絡をとりあつて、あらかじめのような援助を受けられるか、支援ができるかを考え、その手段と方法を考えておくこと。

危機管理マニュアルの策定

1. 代位指定を定めた指令系統の確立と策定
代位指定は最低三位くらいまでとする。

代位にはその長と同等の決定権（緊急事態時に対応してあらゆる権限を行使することができるもの）をも

たせることが大切。例えば団委員長を一位として筆頭副団委員長が二位、さらに次席副団委員長が三位の順に代位を定めておき、あるとき緊急事態が発生した場合、不幸にして団委員長不在のとき代位は筆頭副団委員長が一位、次席副団委員長が二位となつて指揮を代行する。これを代位指定という。この場合、育成会長は発言権を有する首席参席者となつてもよいし、三位としてもよい。

2. 代位がなにかを代行するときの責任

代位があることを代行する場合、代行したことの結果に対しては代行は一切その責めは負わない、負わせないということが大切な条件である。

3. 代位となる人の条件

刻々変化してゆく緊急事態の変化に惑わされることなく適時・的確に現状を把握し、即断即決できる能力とそうした事態にたえることのできる体力と精神力と実行力を持った人がもとめられる。

以上、危機管理の一般論について述べてきた。来月号では事例をあげて危機管理の実際を考えてみたい。



救急法の訓練がとても大切なことにお気付きになることだろう。救急法は知識を持つていてるだけでなく、実践できて初めて役に立つものである。日頃から繰り返し繰り返し練習し、いざというときにおちついて手早く処置できるようにしておきたい。日本連盟では毎年救急法講習会開設研究会を開催している。救急法講習会は伝達講習会であるから、ここで学んだ後県連盟、地区、団等に持ち帰り、多くの方に伝えていってほしい。また、日本連盟では講師の派遣も行っているので、講師不足の際は県連盟を通じてご相談いただきたい。

もしものときのための保険

不幸にも事故が起ってしまったために、日本連盟では賠償責任保険に入っている。これはスカウト活動中に、スカウトまたはスカウト以外の第三者が事故により死亡または負傷した際に、日本連盟、県連盟、地区、団ならびに指導者等の主催者側が、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害を、保険金として支払うものであり、保険金限度額は死亡一名に五、〇〇〇万円、一事故に三億円となっている。保険料は、加盟員一名あたりで換算してみると、一八円分である（平成七年度）。

なお、事故が起ってしまったときには、賠償責任を問われるかどうかは別として、すぐに地区を通じて県連盟へ報告していただきたい。

また、指導者自ら被った死傷事故や、法律上の損害賠償責任が発生しなかつたときのスカウトのケガ等にはこの保険は対象とならないので、団、地区、県連盟で「スカウト保険」等の傷害保険に加入することを強くお勧めする。

（スカウト保険のお問い合わせは、所属県連盟または日本連盟総務課まで）

6月は環境月間

ボーイスカウト環境保全実践活動

主催：財団法人ボーイスカウト日本連盟
 後援：文部省・環境庁
 協賛：株式会社ヤクルト本社

今回の「環境保全実施活動」の企画ならびに各スカウト団・隊の日頃の環境活動への取り組みに対して、株式会社ヤクルト本社からご協賛いただき、「プログラムパッケージN0.2 水を守る」と水質調査に使う「CODテストパック」が全国のボーイスカウト団へ提供されています。

スカウト一人ひとりが地球環境について考え、身近な環境保全活動に参加し、体験を通して自然の美しさや自然の大切さ・自然の仕組みについて学ぶ機会として、平成7年度ボーイスカウト「環境保全実践活動」を実施しています。この活動は主に6月の環境月間に展開できる活動として、今年度より取り上げられた新しい事業です。9月15日の「スカウトの日」の活動と併せ、全国のスカウト団・隊での活動が期待されています。

生活排水を 少なく、きれいに

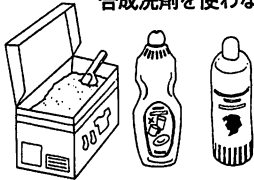
米のとぎ汁処理



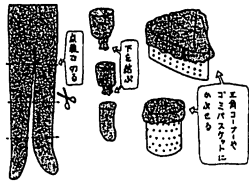
食器の汚れは一度拭きとって



合成洗剤を使わない



食べ物くずを下水へ流さない



水を守る

水質調査 プロジェクト

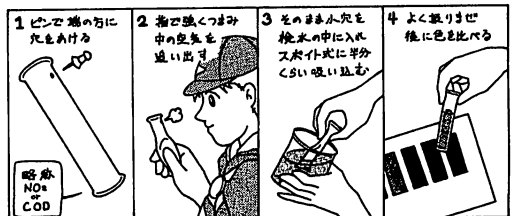
調査の仕方

- (1) 調査は組や班単位で行います。
- (2) 調査する地点に着いたら、記録用紙に地点名、地点番号、月日、時刻、その地点の状況を記入します。
- (3) 次に川の中へ入り、水深が30cm前後で、ごぶし大から頭大の石のある場所を探します。どうしてもそのような場所がない場合には小さな石、砂、砂利のところでも構いません。
- (4) 調査地点が決まりましたら、下流側に受け網を置きながら、その地点の石、あるいは礫のいくつかを静かに取り上げ、バットやバケツの中に入れます。石や礫を取り上げた後川底をシャベルや足でかきまぜ、流れてくる虫を受け網で受け取ります。川底が砂や泥の場合は、この方法だけで採集します。
- (5) 岸に運んできた石や礫はバットかビニールの白い風呂敷の上に置き、よく見ながらピンセットを使用してそれらの表面にいる生物を採取します。



CODを測ろう

(詳細はパックテストに入っている説明書を読み、その取扱いは十分に注意してください)



河川の美化活動



各団に配布されている活動資料「プログラムパッケージNO.2水を守る」の巻末の報告書様式を用いて、平成7年7月30日までに活動内容をご報告ください。



平成6年度 富士スカウト 進級者一覧

平成六年度に富士スカウトに進級したスカウトは、
二五県連盟より一七四名でした。

※今回の掲載は、進級認証申請書の県連盟認証日が平成六年
三月一日から平成七年三月三十一日までの方です。

授与No	氏名	県連盟所属団	プロジェクト名	所屬隊長名
1867	榎本 厚太	京都 舞鶴第7団	21世紀の舞鶴湾	榎本 勝
1868	福盛 修司	福岡 遠賀第2団	遠賀川と石炭産業	岡 神
1869	岡田 和久	福岡 福岡第19団	交通事故とその対策	武井 靖行
1870	坂本敬太郎	福岡 北九州第1団	エイズ	田中 好純
1871	坂本 朋幸	福岡 福岡第20団	アリのベットにする方法	浦田 健司
1872	井上 伸一	福岡 遠賀第3団	僕の財産・バイオリン	坂本 國貴
1873	渋谷 淳	福岡 福岡第40団	我、40回キャンプ場への提言	鶴我 敏彦
1874	合原 龍馬	福岡 福岡第23団	F1について	池田 正義
1875	新田 洋	神奈川 川崎第49団	ソーラーカーの製作	清水 賢治
1876	山中 幸盛	神奈川 横浜第100団	心身障害者福祉に関するスカウトプログラム	山中 誠
1877	辻 孔秀	神奈川 海老名第4団	本格建築による犬小屋の設計と製作	鶴田 智也
1878	織井 茂規	神奈川 相模原第5団	イグルーとは	鯉登 宏一
1879	小林 辰彦	神奈川 相模原第5団	極寒の民イヌイット	鯉登 宏一
1880	牧島 直輝	神奈川 相模原第6団	福祉	渡木 一壽
1881	牧島 仁志	神奈川 相模原第6団	バイクの整備と事故の予防と対処方法	渡木 一壽
1882	光武 勉	神奈川 相模原第6団	釣りと私	渡木 一壽
1883	松本 雅一	福岡 大牟田第3団	祇園祭大蛇山山車の考案	阿津坂秀人
1884	山本 留尉	山形 山形第45団	初代山形県令三島通庸の山形に於ける土木工事の業績と経緯	原 晋一
1885	村井 政徳	京都 京都第14団	西陣	村澤 靖史
1886	服部 規仁	北海道 旭川第18団	パソコンのサウンド制御について	宮内紀代志
1887	工藤 一昭	大分 大分第9団	驚異のコンピュータ(その起源・進化・未来)	小野 日隆
1888	山本 孝司	大分 大分第1団	スカウトハウス	阿南 国康
1889	阿南 博之	大分 大分第1団	煎茶道	阿南 国康
1890	松村 征爾	大分 大分第1団	吟詠の発祥とその特色	阿南 国康
1891	山田康太郎	秋田 秋田第33団	簡易ろ過装置をつくる	加賀谷正春
1892	伊藤 寛彦	秋田 秋田第33団	草生津川の歴史とその改修工事について	加賀谷正春
1893	柳原 義孝	秋田 秋田第33団	石けんを作る	加賀谷正春
1894	苗村 信弘	京都 京都第14団	スカウトの為に測量方法	村澤 靖史
1895	久場 諭	京都 那覇第3団	沖繩の伝統芸能組踊について	初鹿野 修
1896	藤山 尚樹	京都 京都第80団	これからの自動車を考える	工藤 剛
1897	滝脇 正明	京都 京都第79団	ディーゼル車が起す大気汚染について	三木 猛
1898	長島 岳人	京都 京都第72団	あるスカウトを禁煙させる事に関する提案	今井 徹
1899	中山 章弘	大阪 箕面第7団	天気	山内 朗弘
1900	榎園 弘介	大阪 富田林第2団	障害について考える	占部 訓寛
1901	川崎 匡登	大阪 大阪第122団	道はたの碑を探して	田中 逸雄
1902	佐々木 亮	大阪 大阪第122団	大阪地下鉄設備マップ	田中 逸雄
1903	浅野 悟志	大阪 枚方第16団	枚方市を流れる河川の水質調査と考察	大手 晴雄

1904	藤戸 正行	大阪	東大阪第17団	究極の鍋	植田 啓司
1905	浜田 英之	大阪	東大阪第18団	火起こし器	柏木 徹
1906	阿波 良朋	大阪	東大阪第4団	日本と生きる木材	中森 正悦
1907	服部 直歩	大阪	東大阪第4団	スカウトの火	中森 正悦
1908	寺田 昌広	千葉	柏第2団	団内報の発行(カニシシの歩み)	百瀬 博文
1909	中野 豊和	千葉	佐倉第2団	ユースホステルの現状・実体について	新井 邦雄
1910	奥原 勉	長野	松本第2団	相模口ポットの製作	三村 登
1911	吉益 和也	兵庫	洲本第1団	権力者達の椅子	山階 空昭
1912	村上 茂之	静岡	清水町第6団	微生物の力と水の浄化	村上 茂
1913	和田 文典	京都	長岡第2団	「平和」について	大幸 勲
1914	土山 龍之	静岡	三島第3団	テント	水野 芳雄
1915	藤澤 直樹	静岡	三島第3団	日本の文化の違い	水野 芳雄
1916	野田 弘之	静岡	清水町第6団	弓道について	村上 茂
1917	浦川 敏和	東京	葛飾第2団	カメラの原点「ピンホールカメラ」	東平 進
1918	小笠原正理	東京	板橋第5団	九十九川・唐沢川の環境と自然	渡辺 隆司
1919	斎藤 雄太	東京	新宿第6団	インディアン料理の研究	保坂 幸尚
1920	岸本 健志	大阪	大阪第7団	焼きもの私	岸本 高志
1921	中川 秀俊	福井	福井第3団	ハンディキャップをもつ仲間	有塚 新一
1922	遠藤 仁宏	北海道	旭川第18団	旭川の橋「旭橋」の歴史	宮内紀代志
1923	小野 潤一	青森	青森第42団	インディアンの衣・食・住	小嶋 良一
1924	山根 聡之	和歌山	海草第1団	私の住む町	丸山 俊男
1925	宮川 哲治	愛媛	宇和島第3団	二葉芳徳公と伊達藩	渡辺 富昭
1926	森本 彰	静岡	静岡第26団	徳川家康	国松 智
1927	磯ヶ谷洋介	神奈川	横浜第73団	自作ノルディックスキートの材質の違いによる	菅谷 良和
1928	小山 正芳	岐阜	可児第1団	クイズを学問する	日比野 守
1929	菅谷 淳	愛媛	松山第19団	松山を巡る	鎌井 鉄男
1930	熊田 信義	兵庫	西宮第23団	Embrace of Sound	稲田 直明
1931	中野 充	新潟	加茂第1団	「北アメリカインディアンの住居」	池田 清隆
1932	木名瀬誠司	千葉	松戸第2団	東郷地区の展望	小川 晋
ティーンメントの製作					

1933	西山 大輔	千葉	野田第4団	初めて作る自作カヌー	平野 俊夫
1934	野村 勝義	京都	京都第60団	僕の町は平和?	三崎 敏夫
1935	山下 征志	群馬	前橋第3団	A邸新築工事案	江原 一郎
1936	池見 良平	神奈川	相模原第5団	相模原市のリサイクルについて	鯉登 宏一
1937	加藤 昌位	神奈川	相模原第10団	カッコイ上級班を見習って	藤沢 忠弘
1938	山田 大介	神奈川	秦野第3団	今、なぜ、手磨豆か	佐藤 道良
1939	松島 崇	神奈川	相模原第10団	ワンダーフォーゲルと自然と思索	藤沢 忠弘
1940	白鳥 文視	奈良	磯城第1団	キャンプのトイレ改造計画	野坂須夫
1941	山川 直之	滋賀	大津第12団	安土城について	中津 勝
1942	川井 君春	長野	松本第2団	エイズとともに生きる社会	三村 登
1943	西村 誠	長野	松本第2団	今年の梅雨と夏の天気の特長	三村 登
1944	小山 國伸	北海道	留萌第1団	土木工事 その設計説明	室本 直俊
1945	本間 万也	北海道	留萌第1団	留萌の漁業	室本 直俊
1946	菅沼 純治	北海道	留萌第1団	ボーイスカウト活動	室本 直俊
1947	柴島 正明	千葉	君津第2団	第24回木高祭文化の部	柴島 晋作
1948	佐々木英幸	千葉	君津第2団	畑沢FCを作って	柴島 晋作
1949	大谷 浩介	東京	品川第1団	スクーパダイビングにおける危険防止と安全確保	大吉 淳一
1950	山本 竜太	石川	金沢第2団	BASICによる物理諸問題のシミュレーション	西村 博人
1951	関 規寛	石川	金沢第2団	英国スカウティング(初期)に関する考察	西村 博人
1952	澤 佳孝	福岡	北九州第1団	僕たちの周りの「ゴミ」	田中 好純
1953	青木 良太	長野	松本第2団	音楽を考える、エレクトロニックギター製作	三村 登
1954	西川 明良	京都	京都第81団	走馬と養蚕	清水 義弘
1955	塩見 誠啓	京都	福知山第1団	炭焼き実験についての研究	日和 隆
1956	大隅 年弘	岐阜	可児第1団	水胎の製造	日比野 守
1957	西川 智之	大阪	大阪第142団	和光寺の四季	土肥 学
1958	北岡 大明	北海道	札幌第36団	アメリカ、カナダと日本の生活様式はここがちがう	中村 宏彰
1959	下田 安規	北海道	札幌第36団	日本の遊びをカナダ、アメリカへ	中村 宏彰
1960	今田雄一郎	東京	町田第13団	無公害エンジン搭載未来型自動車(研究・製作)	与世山俊夫
1961	木村 竜也	東京	江戸川第5団	ゴミ問題とリサイクル	柳 登志夫
1962	伊東 忍	東京	目黒第8団	伊東忍的「おくのぼろ道」	長谷川 準

1963	星月 一人	東京	狛江第1団	”創作ドキュメントビデオ The スカウト活動“	広瀬 泰之
1964	上澤 篤司	東京	千代田第1団	「食」について ―現代社会の善と悪―	植松 弘幸
1965	高木 和真	東京	江戸川第5団	母なる太陽エネルギー ―太陽熱温水浴の製作―	柳 登志夫
1966	田辺 匠	東京	世田谷第22団	雪中キャンピングの手引き	松下 毅
1967	藤原 憲明	大分	大分第2団	大分のスカウトリングの活性化のために	御手洗清一
1968	肥後 有紀	神奈川県	横浜第126団	身体障害者(肢体不自由者)とボランティア	大井 健晴
1969	横山 正輝	神奈川県	横浜第73団	自分の身を粉にしての「母なる地球」の計画	菅谷 良和
1970	新川 健一	大阪	大阪第106団	スカウトリングの集大成・救急安全ハンドブック	稲垣 木作
1971	石井 俊介	静岡	伊東第5団	我が伊豆自慢	山口 康裕
1972	河野 隆一	東京	町田第7団	日学祭での花火の打ち揚げ	河野 恭助
1973	樋口 亮一	東京	葛飾第7団	使える野外料理	片桐 将隆
1974	岡野 泰明	東京	江戸川第5団	旅して世界へ	柳 登志夫
1975	岩田 安浩	東京	北第10団	お茶の文化	白井 和之
1976	新里 大樹	東京	北第8団	「食」について ―現代社会の善と悪―	八木 光重
1977	笹川 晋	東京	北第8団	サッカーの戦術について	八木 光重
1978	木野内信哉	東京	大田第8団	幼年代のゲーム研究	横溝 宏明
1979	梶原 慎吾	東京	大田第17団	やる気の科挙	馬場 淳一
1980	小川 裕章	東京	狛江第3団	上級班長を通してスカウト活動を見直す	谷津田 功
1981	中島 龍一	東京	台東第7団	池上本門寺	関口 真流
1982	富田 強吾	東京	荒川第4団	日本伝統和太鼓音楽のすべて	越村 則夫
1983	石塚 博司	東京	台東第7団	地球に優しいキャンピング	関口 真流
1984	吉田 友	東京	港第12団	野外における水料理	正田 豊
1985	林田 勇武	東京	港第1団	てくの清掃局の製作	筒井 一雅
1986	川 正樹	東京	港第1団	世界と日本	筒井 一雅
1987	石井 一也	東京	港第1団	レーシングカートについて	筒井 一雅
1988	小林 弘明	東京	練馬第17団	鉄道東西比較	水越 晴夫
1989	高橋 竜太	東京	町田第9団	ボランティア活動の探求(体験的海外ボランティア)	佐野 弘明
1990	石川真之介	東京	町田第1団	新島の観光を支えるコトガ石調査	吉田 良文
1991	増田 一	東京	町田第1団	ダンスと音楽の歴史	吉田 良文
1992	安原 秀法	東京	小平第3団	新選組	本田 吉晴

1993	丸山 圭介	東京	田無第1団	携行保存食の研究	谷道 龍彦
1994	鈴木 剛	東京	町田第15団	わが故郷「井川」	安達龍太郎
1995	樋口 秀樹	北海道	旭川第19団	オシロスコープと交流遊形との関係	西川 嘉一
1996	坂本 善憲	北海道	旭川第7団	チーズ(北海道への導入と試作)	松倉 信業
1997	有衛 大樹	北海道	旭川第7団	The Experience Records of SAN FRANCISCO	松倉 信業
1998	浜多 圭一	北海道	滝川第1団	雪中におけるキャンピング実施と雪期キャンピングとの比較	高橋 直克
1999	荒井 章宏	福井	福井第3団	History of Silk My Future on Silk Road	有塚 新一
2000	清水 優哉	長野	松本第1団	学校生活とスカウトリング	森川 和英
2001	五味 敏雄	長野	茅野第1団	素顔のアメリカを知る	伊藤 和幸
2002	小野 紘喜	北海道	札幌第36団	北アメリカの大自然	中村 宏彰
2003	鈴木 克嗣	静岡	浜松第16団	関西国際空港	梶田 洋一
2004	清水 俊光	静岡	浜松第7団	障害者差別	松村 邦男
2005	秋山 修司	静岡	浜松第7団	野生動物たちの危機	松村 邦男
2006	山梨 貴弘	静岡	静岡第22団	コンピュータ犯罪	岡村 政則
2007	大石 正隆	静岡	浜松第7団	絶対音感がほしい!!	松村 邦男
2008	山田 学	愛知	名古屋第34団	ルーツをたずねて	山田 義雄
2009	吉田 陽一	愛知	名古屋第34団	私と剣道	山田 義雄
2010	周尾 卓也	愛知	名古屋第57団	実践修行への道	渡辺 昌明
2011	新川 智英	愛知	豊明第1団	目指せ、ワープロ検定3級	兼子 光男
2012	岡本 康宏	愛知	名古屋第30団	聴覚障害者と手話	鬼頭 岩夫
2013	竹内 賢一	愛知	瀬戸第5団	住みよむ暮らして、将来を考えて―瀬戸市のユミ―	小川 孝
2014	横澤 信昌	愛知	小牧第2団	高校生と交通安全	井上 勲
2015	川口 高明	愛知	稲沢第6団	Land Navigation	山田 一夫
2016	佐世 貴司	愛知	半田第2団	柔道	蟹江 頼正
2017	小笠原祥平	愛知	半田第2団	仏像の美	蟹江 頼正
2018	竹内 泰孝	愛知	半田第2団	タイ米はうまい	蟹江 頼正
2019	岩田 綱輔	愛知	半田第3団	大獅子・小獅子の舞(私と獅子舞)	神原 孝治
2020	榎原 大輔	愛知	半田第6団	ログハウス建築の研究と実践	清水 正夫
2021	小松 茂樹	長野	駒ヶ根第1団	駒ヶ根市誕生の裏	中村 弘行
2022	田中 大介	徳島	名西第1団	携帯燃料の一考察	仲 徳一

2023	佐藤 洋平	宮城	岩沼第1団	鼓隊指導	那須 義史	2053	高橋 肇	東京	文京第5団	これが理想のブルド	杉田 篤司
2024	宮田 悠輔	神奈川	横浜第79団	映像によるメッセージ・SSよりCSへ	大坪 浩一	2054	金築 圭一	兵庫	宝塚第10団	五色塚の古墳	家門 秀行
2025	川村 秀顕	神奈川	横浜第43団	飯田線各駅停車	藤原 一久	2055	藤原 一久	兵庫	尼崎第11団	現代の高校生進路決定の問題点	喜多 敬
2026	高橋 隆二	神奈川	横浜第43団	WHA1サッカー	松下 尚雄	2056	樋口 聖	兵庫	西宮第24団	馬がいるからすべてが楽しい	松本 一朗
2027	平石 行雄	神奈川	横浜第35団	バイク(高校生とバイクについて)	白川 諭	2057	岡田 卓也	兵庫	神戸第47団	「住吉村」ーその歴史と阪神大水害	濱田 耕次
2028	五十嵐登浩	神奈川	横浜第20団	ペリーの人間像とポリースカウト	大菊 和照	2058	山下 大祐	兵庫	西宮第3団	自分の力で動力となる車両のエンジンに触れる	森地 一夫
2029	山本 源太	石川	金沢第2団	What's the Venture?	西村 博人	2059	北野 長俊	石川	川北第2団	スキーの研究	中村 正志
2030	松本 忠	石川	金沢第2団	公園の利用価値の研究	西村 博人	2060	大西 秀雄	岐阜	大垣第7団	ギネスに挑戦	馬淵 雅彦
2031	松本 友康	長野	松本第4団	オーストラリアベンチャー	赤廣 三郎	2061	保子 潤太	愛媛	松山第12団	四国雪場とお湯路さん	鳥谷 純一
2032	赤廣 亮	長野	松本第4団	韓国(朝鮮)とわたし	赤廣 三郎	2062	渡部 真之	愛媛	松山第12団	「ルアーフィッシング」の研究	鳥谷 純一
2033	安増 忠昭	福岡	福岡第40団	過去を知る	佐伯 宗則	2063	井本 義仁	兵庫	芦屋第3団	私とやりなげ	池田 純雄
2034	吉武公一朗	福岡	福岡第16団	山笠の伝統とときたり	三河尻和夫	2064	大下 博章	千葉	千葉第25団	家庭修理技能の向上と実践	石塚 昇
2035	高田 大一	福岡	福岡第16団	完全1000km完歩マニアル	三河尻和夫	2065	渋谷 勇介	千葉	四街道第1団	キャンプ場の見張り台制作	渋谷 孝作
2036	磯ヶ谷和光	静岡	静岡第27団	水と騒音	山田 信孝	2066	横内 崇	長野	松本第4団	ナイフに関する研究と制作	赤廣 三郎
2037	山崎 基弘	京都	京都第5団	天体観察と夜間バイクのコースづくり	花村 忠崇	2067	野澤 誠	長野	松本第4団	9 AV 日本派遣団公式報告書づくり	赤廣 三郎
2038	福島 一	奈良	奈良第12団	エレクトーンのためのスカウト曲集	唐橋 聡	2068	表 伸芳	京都	京都第60団	個人と消防	三賢 敏夫
2039	近藤 勉	大阪	高槻第1団	高槻の寒天作り挑戦	中村 研一	2069	生野 孝	京都	城陽第1団	短波ラジオの製作興味喚起	上口 俊幸
2040	日野 充貴	大阪	吹田第12団	C D	柄谷 真咲	2070	平田 直也	京都	京都第13団	命の水	安田 幸永
2041	古屋 貴充	大阪	寝屋川第3団	茶器	中沢 一訓	2071	諸岡 正治	福岡	福岡第23団	プロレスから学ぶこと	池田 正義
2042	安部 剛英	大阪	美原第1団	アンケートによるBSへの意識調査	杉林 真悟	2072	野角 高志	福岡	福岡第23団	僕のアクアリウム	池田 正義
2043	山本 拓也	大阪	柏原第2団	歴史と水質調査 ー大和川ー	中沢 一訓	2073	小島 龍孝	福岡	福岡第20団	これであなともボランティアマン	浦田 健司
2044	巽坂 達也	大阪	東大阪第4団	自作イカダによる川下り	中森 正悦	2074	横山 智徳	福岡	福岡第20団	そなえよつねに	浦田 健司
2045	三宅 康博	大阪	東大阪第6団	河内の土器	木原 和彦	2075	城間 康文	神奈川	那覇第3団	沖縄の地層	初鹿野 修
2046	仲澤 純	神奈川	横浜第99団	将来に向けての自分史	松本 康義	2076	城間陽一郎	神奈川	那覇第3団	琉球料理II	初鹿野 修
2047	北村 耕一	神奈川	海老名第2団	海老名市の森林調査	伊藤 健三	2077	圓入 智仁	大阪	高槻第4団	タイにおけるポリースカウト活動実態調査	二神 正裕
2048	田畑 弘之	神奈川	海老名第2団	相模横山九里の土手	伊藤 健三	2078	富永 昌勲	大阪	東大阪第17団	エアレント	植田 啓司
2049	齋藤 秀俊	神奈川	海老名第2団	海老名市内のヒガンバナについて	伊藤 健三	2079	松川 武志	大阪	枚方第16団	枚方東部における寺の歴史について	大牟 晴雄
2050	飯野 泰光	神奈川	海老名第2団	海老名市の草原調査	伊藤 健三	2080	伊藤 卓	大阪	豊中第10団	豊中市の緑化について	三輪順一郎
2051	中村 岳彦	神奈川	相模原第8団	山の魅力と登山計画	伊藤 健三	2081	木村 大介	大阪	豊中第10団	老人問題について	三輪順一郎
2052	太田 圭介	神奈川	相模原第8団	民族音楽の成り立ちとその響き	小山 聡	2082	大迫 郷	大阪	堺第28団	河川の汚染と飲料水	白濱 俊幸
					小山 聡	2083	井上 竜介	大分	別府第9団	国東半島の六郷満山について	松山 清正

石川啄木

いし かわ たく ぼく

はたらけど はたらけど猶わが生活楽に

ならざりき ちつと手を見る

東海の小島の磯の白浜に 我れ泣きぬれて

蟹とたむむる

革新的という評価を受けたこの短歌を読んで、薄幸の啄木の姿を連想しない読者はいまい。額に汗して一生懸命に働いても、安い月給では生活はちつとも楽にならない。「そんな人生に涙して、蟹を相手にたむむる自分の姿を詠んだものであろう」と。と読者の共感を呼び天才詩人の地位を確立する。たしかに短歌や詩を読んでいる限りでは、啄木の人生は貧困と病苦の短い生涯だった、と思わずにはおれない作品の数々である。

啄木は本名を石川一（いちめ）といい、明治一九（一八八六）年、岩手県に生まれた。日戸村の曹洞宗・常光寺の住職だった父・一禎（いちね）は、隣り村の洪民村にある宝徳寺が焼けたままになっていたのを、設計から費用の捻出まで一人の力で再建し、二歳の啄木を連れて移り住んだ。病弱な跡取り息子の啄木は父母から溺愛され、わがままいっぱいに育っていく。

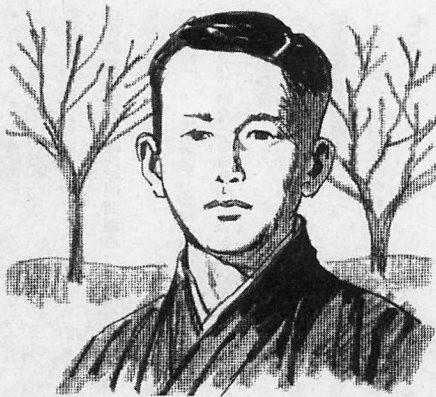
小さいころ、村でよく食べられていた「ゆべし饅頭」を食べたくなると、彼は真夜中であろうと母を

叩き起こして「たべたいよー、たべたいよー」と、ダダをこね、作ってくれるまで引き下がらない。母・カツは彼がいいだすと、どんなに寒い夜でもこごえながら饅頭を作ってやるのだった。家を離れて盛岡の叔父の家から高等小学校に通うようになって、珍しい物が手にはいると、出入りの者に二〇キロも離れた盛岡に持っていかせた。

盛岡中学時代は大勢の友だちを連れて帰郷、「まるで石川ホテルだ」と近所の人たちが噂するほどだった。それほど裕福だったのである。こうしたわがままが尾を引いて、彼は自分を制御できない人間を形成していく。五年生の一〇月、卒業を目前にして突然退学してしまう。一二八人中一〇番だった一年の成績が、二年から下降線をたどり、五年の一学期の期末試験で不正が見つかった。成績も下から数えた方がはやく、欠席が出席日数を上回っていた。そのころ、堀合節子という女性を熱愛し、詩作や短歌への異常な傾倒もあいまって、学業に身がはいらず卒業の見込みがなくなつたのが退学の理由である。

一七歳の啄木は退学したその月、文学を志して上

京、中学の四年先輩で、のちに「銭形平次捕物控」の作者となる野村胡堂をたずねる。彼は啄木の無謀をいさめ地道に勉強しろと、中学五年生に編入できるように、奔走してくれるが見つからなかった。下宿で創作に励み与謝野鉄幹・晶子夫妻と知り合い師とあおぐ。翌年二月には病気を理由に郷里に帰ることになり、父がやつと金を工面して迎えにきた。その大切な金をチップとして旅館の女中さんに、ポント三円を渡している。二食つき学生の下宿料が七円のとときにである。やがて父が本山に納入する宗費を滞



納し寺を罷免になる。このことは、啄木の経済観念がゼロに等しい浪費が原因だろうといわれている。

二〇歳で掘合節子と結婚した。一二歳で洪民村の代用教員に奉職するが、校内刷新、遠藤校長排斥の先頭にたつて生徒を扇動、一年もたたぬうちに辞職する。自身の才能に絶大な自信を持っていた彼は、新天地を求めて北海道に渡った。そこで函館、札幌、小樽、釧路と四つのローカル新聞に職を変え、そのあとも東京で転々と職を変えている。詩集さえ出版できれば大金が飛びこんでくると思いこみ、働いても長続きせず、平然と借金を重ねていくのだった。北海道で挫折して二度目の上京のときには、大言壮語の大ウソつきになっていた。

北海道の新聞社の給料が二五円だった。その啄木が人力車を乗りまわし一五円もの大金を請求されると、知人宅に乗りつけ借金をして払う。「數島」という最高級のタバコをふかして、次ぎから次ぎと有名な人を訪問しては「きょう原敬に会ったら、三井に紹介状を書いてくれてね。ぼくの詩集に三万円ほど出してくれそうなんだ。そうなったらバイロンのように、世界を回つてもっと凄い詩を書こうと思ってるんだ。きみも一緒にどうかね。ところで今持ち合わせがないんだが、一〇円ほど貸してくれないか。明日にでも返すよ」という具合に、同郷の原敬を持ち出し、三井を後ろ盾の大風呂敷を広げる。

こんな大風呂敷を聞かされた友人知人は、彼の回りから潮が引くように遠ざかっていった。父の失職、病弱な自身、家庭不和など困窮の要因を抱えていたが、北海道の新聞社にじっくり腰をす



え、二五円の俸給で文学に専念したなら、借金を重ねることもなく、あれほど困窮することもなかったろう。たしかに北海道の新聞に在籍中は、文壇や短歌のコーナーを創設、自身の創作も発表して健筆をふるっているが、彼の常識はずれの性格は、いつの間にか人間関係に摩擦をおこし、二年たらずで四つの新聞社を転々とし、東京へ逃げ出すのである。

短歌や詩の評価は高かったが、金にはならない。出版さえできれば、という思いはことごとくはずれていっても、彼の経済観念は普通に返るところか、借金の人として周囲にその名を高めていく。

啄木が書いた「借金メモ」があり、彼の友人知人のほとんどが名を連ねている。めぼしいのは与謝野鉄幹・晶子夫妻から結婚資金として一五円。仙台では旅館に一〇日間も留まって、母重体の偽手紙を旅館の番頭に持たせて土井晚翠から一五円。そのあと旅館からの宿泊費八円七〇銭の請求書が届けられた。兩人からの借金は節子と結婚するための資金だったが、啄木はそれを懐に入れたまま、明日に迫っていた盛岡での結婚式には出席せず、仙台から逃げ出し浪費している。式は新郎不在のまま行われた。

名もない友人たちからも多く、洪民、盛岡など地元一六名・三三六円。その他、下宿、本屋、旅館など六一件、総額一三七二円五〇銭とある。このメモは明治四二年までのもので、彼は四五年まで生存しているから、もっと借金を重ねているはずで、その総額は給与や原稿料を合わせた生涯賃金を、上回っているだろうといわれている。薄幸というより奇行に満ちた二七年の生涯に思えてしかたがない。

世界ジャンボリー情報 ④

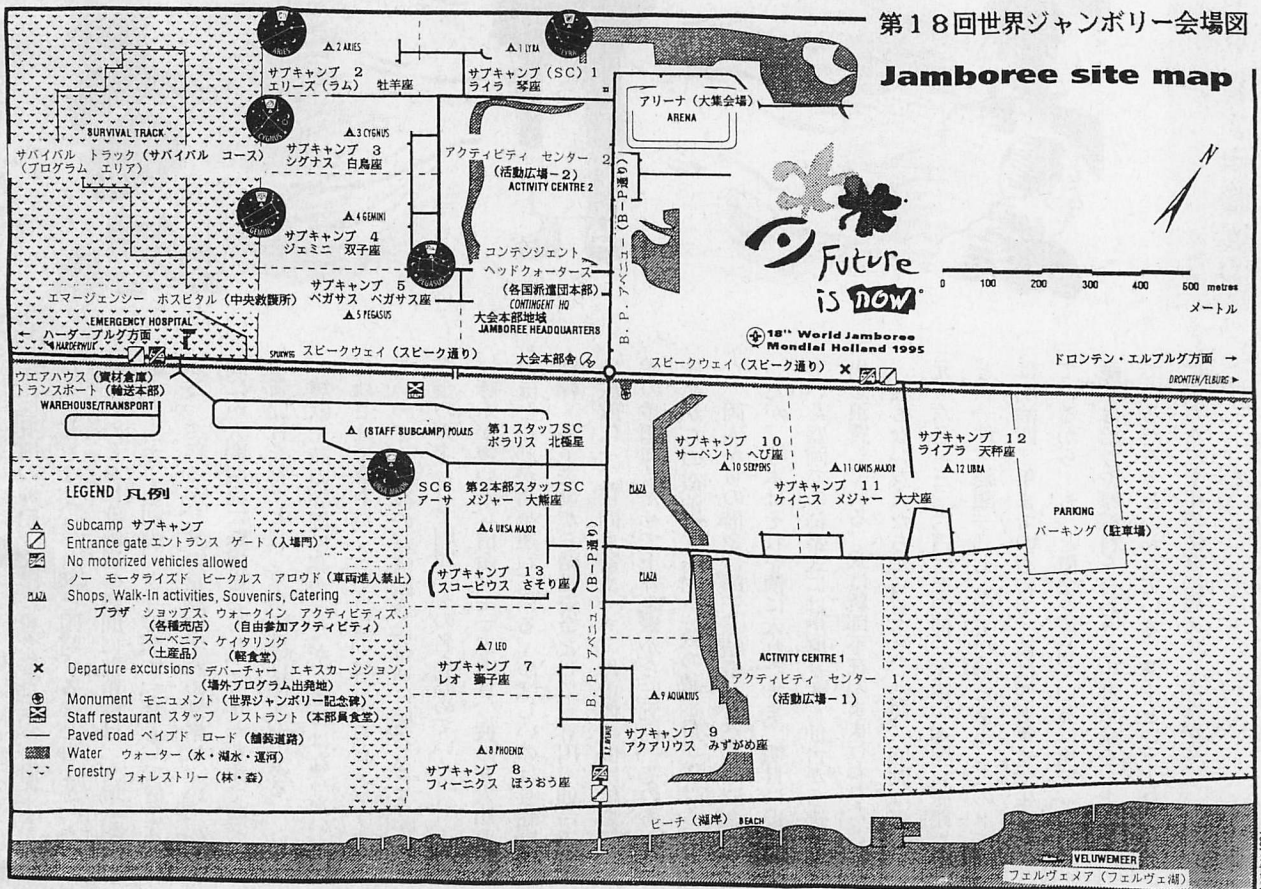
1995.8.1 ~ 8.11

サブキャンプ 1	LYRA	ライラ	琴座
サブキャンプ 2	ARIES (RAM)	エリーズ (ラム)	牡羊座
サブキャンプ 3	CYGNUS	シグナス	白鳥座
サブキャンプ 4	GEMINI	ジェミニ	双子座
サブキャンプ 5	PEGASUS	ペガサス	ペガサス座
サブキャンプ 6	URSA MAJOR	アーサ メジャー	大熊座
サブキャンプ 7	LEO	レオ	獅子座
サブキャンプ 8	PHOENIX	フィーニクス	ほうおう座
サブキャンプ 9	AQUARIUS	アクアリウス	みずがめ座
サブキャンプ 10	SERPENT	サーペント	へび座
サブキャンプ 11	CANIS MAJOR	ケイニス メジャー	大犬座
サブキャンプ 12	LIBRA	ライブラ	天秤座
スタッフ サブキャンプ	POLARIS	ポラリス	北極星

ジャンボリーサイトーサブキャンプー
世界ジャンボリーのサイトは、一二のサブキャンプに分割される。それぞれのサブキャンプでは、男子と女子最大二、五〇〇名が宿泊を予定。加えて、スタッフサブキャンプが設置される。サブキャンプの名前は、星座の名前からつけられている。
日本派遣団はすべてのサブキャンプに分散して宿泊する。

第18回世界ジャンボリー会場図

Jamboree site map



※サブキャンプ7以降のマークが4月現在未着ですが、すべてのサブキャンプにマークがつけられる予定です。

第7回日本アグーナリー情報 ²



テーマ「広がる夢 友情の輪」

▲大会マークデザイン
福岡・福岡第5団 団委員長 廣田豊秋

かがやけアグーナリー

作詞 岩谷時子
作曲 樋口康雄

♩ = 129 マーチングドラム 4 前奏 4

アグーナリー アグーナリー たのしい アグーナリー アグーナリー
 アグーナリー アグーナリー たのしい アグーナリー アグーナリー
 アグーナリー アグーナリー たのしい アグーナリー アグーナリー

アグーナリー あか り アグーナリー し ぜん に
 アグーナリー あか り アグーナリー こ ころ き
 アグーナリー あか り アグーナリー な っ かし

つつ まれ き ぼう を そ だ て よ ひ と り ひ と り が だ い ち の う え で
 ふれ あい は げ ま し う あ お う よ ひ と り ひ と り が と き の り こ え が
 おも い で つ く ろ う と も だ ち ひ と り ひ と り が ひ かり を か か げ

い き ら よ る こ び う た お う ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー
 ち か ら そ な え て い こ う よ ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー
 げ ん き や く そ く し よ う よ ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー

た の し い ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー せ か い の
 た の し い ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー み かん の
 た の し い ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー ア グ ナ リ ー す て き な

マーチングドラム
 アグーナリー か が や け ア グ ナ リ ー
 アグーナリー か が や け ア グ ナ リ ー
 アグーナリー か が や け ア グ ナ リ ー

A G O O N O R E E ! A G O O N O R E E !
 A G O O N O R E E ! A G O O N O R E E !
 A G O O N O R E E ! A G O O N O R E E !

間奏

かがやけアグーナリー

第11回日本ジャンボリーに引き続き、岩谷時子さんと樋口康雄さんよりアグーナリーの歌が贈られました。



LOW IMPACT

地球環境への影響を抑えた スカウト活動の提案

①

矢島 巖 (やじま いわを)

日本連盟広報委員会・環境委員会委員
神奈川県環境科学センター勤務

六月五日は、

国連「世界環境デー」

一九七二年のこの日、ストックホルムで開かれた国連人間環境会議において、我が国の提案により制定された全地球的な国際記念日である。「環境基本法」(第一〇条)にもこの

日を「環境の保全に関する関心と理解を深め、それにふさわしい活動を行う」ように規定している。

とくに我が国では、六月五日からの一週間を環境週間、六月中を環境月間に指定し、各地の気候風土に合わせた啓発活動をするように期待されている。

この趣旨に合わせて、地球環境におよぼす負荷やマイナスの影響を避け、できる限りそれを抑制するスカウト生活を「LISE」(Low Impact Scouting for the Earth)と呼び、推進していくことを提案したい。またこれを実践、展開するための様々なアイデアを提供していくことにした。

第一回となる今回は、次回より毎月一テーマずつ図表などをまじえて

紹介していくLISE実践マニュアルの背景となるいくつかの基本的な地球環境問題についてまとめておく。この連載が皆さんの地球を守る実践活動の指針となれば幸いである。



地球環境問題ダイジェスト

★地球の温暖化

【現象】二酸化炭素(炭酸ガス)、メタン、フロンなど温室効果ガスの濃度上昇による地球の温暖化現象で、これにより、気候変動や南北両極の氷の融解による地球海面の上昇が懸念されている。

環境庁の調査によると、人類が今のままの生活様式を続けると、二一世紀末までに地球の平均気温は3〜4度上昇し、海面は約六〇センチメートル上昇すると予測している。

【我が国の国際的取り組み】

一九九三年五月 気候変動に関する国際連合枠組条約(気候変動枠組条約)を締結

★オゾン層の破壊

【現象】大気中に放出したフロン(CFC)による成層圏オゾン層の破壊現象で、この層で防ぎきれない太陽光中の有害な紫外線により、オゾン層が一〇パーセント少なくなると皮膚ガンが二六パーセント増加したり、生物の発芽障害などの悪影響が懸念されている。

国際科学パネルの報告によると、成層圏オゾンの全量は熱帯地域を除きほぼ全地球的に減少傾向を示しており、北緯二六〜六四度の地域では、一九七〇〜一九九一年の二〇年間に一・八パーセント減少したという。

【我が国の国際的取り組み】

一九八七年九月 オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書(CFC等)に対する規制の規定)を採択
一九九五年末 特定フロンの製造を全廃

★酸性雨

【現象】化石燃料の燃焼に伴って排出される硫黄酸化物等により酸性(水素

★熱帯林の減少

【現象】地球の陸地の約三分の一(四〇億ヘクタール)は森林で、その半分が熱帯と亜熱帯にあるが、人口増加による過度の焼畑耕作及び薪炭材の採取、一方的な商業伐採、放牧地への転用等による熱帯林の減少が続いている。

毎年我が国面積の約四〇パーセントにあたる一、五四〇ヘクタールが減少している。

【我が国の国際的取り組み】

一九九二年六月 地球サミットにおいて「森林の保全に関する原則声明」ヒアジェンダ21における森林減少対策の採択

★野生生物種の多様性の減少

【現象】開発による生息地の環境破壊、

密漁等による野生生物の絶滅。

レスター・ブラウンによると、既知の地球生物種は二三九万二千種(推定二千万〜三千万種)のうち五〇〜九〇パーセントが熱帯林に生息。世界資源研究所(WRI)の調査によると、一九九〇〜二〇二〇年間に地球上の五〜一五パーセントの種が絶滅すると予測されている。

【我が国の国際的取り組み】

一九七一年二月 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)の採択

一九七三年三月 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約(ワシントン条約)の採択

一九九三年五月 生物多様性に関する条約(生物多様性条約)を締結

一九九三年二月 生物多様性条約が発効

★砂漠化

【現象】乾燥地における過放牧や薪炭材の過剰採取など不適切な土地利用

等による土地の劣化。

地球の陸地の約三分の一(四五億ヘクタール)が乾燥地帯だが、年間約六〇〇万ヘクタール(九州十四国以上の面積)の砂漠化が進み、世界人口の約六分の一が砂漠化の影響を受けている。

【我が国の国際的取り組み】

一九九三年九月 第二回砂漠化防止条約交渉会議開催

★海洋汚染

【現象】世界の海洋全域に及ぶ有害化学物質、原油、浮遊性廃棄物等による汚染。

南極のアザラシの体内から農薬(DDT・PCB)が検出されたり、油流出事故や有害物質の海洋投入により、プランクトンから魚介類を経る食物連鎖による人体への汚染が懸念されている。

【我が国の国際的取り組み】

一九七二年一〇月 一九七二年の廃棄物その他の投棄による海洋汚染の防止に関する条約(ロンドン条約)の採択

一九七八年二月 一九七三年の船

舶による汚染防止のための国際

条約に関する一九七八年の議定書(マールボロ条約)の採択

一九九三年一月 ロンドン条約第

一六回締結国協議会議(産業廃棄物の海洋投棄禁止等の規制強化を決定)(地域計画は、地中海行動計画等一一地域において策

定されており、日本海等を中心とする北太平洋地域海計画が検

討されている)

★有害廃棄物の越境移動

【現象】化学産業の反応過程で生成する有害な廃棄物や使用済みの有害化学物質の輸出入に伴う不適正な処分により生ずる環境汚染問題。

【我が国の国際的取り組み】

一九八九年三月 有害廃棄物の国境を越える移動およびその処分の規制に関するバーゼル条約の採択

一九九三年九月 バーゼル条約に加入

★開発途上国の公害問題

【現象】工業化の進展や人口の増大と都市への過密な集中等から起こる公害、衛生・食糧・住居・人口の悪循環を

伴う国際的な社会問題。

【我が国の国際的取り組み】

国連持続可能な開発委員会(CSD)、OECD開発援助委員会等において公害防止に関する技術援助、技術移転のあり方について検討中。

★人口爆発

【現象】一〇〇万年前の地球人口約三万人から一万年前の新石器時代に八、六五〇万人、江戸時代初期(一六五〇年)には五億に達した。その三〇〇年後の一九五〇年には二五億を数え、その三十七年後の一九八七年に五〇億に達し、一九九四年には五六億を越した。そして、二二世紀中後半、地球人口は一〇〇億に達すると予測されている。

世界食糧農業機構(FAO)によると、一日の食糧が最低摂取未満の人口が、現在の八億人から二〇〇〇年には一三億人に増加すると予測されている。

【我が国の国際的取り組み】

前記のような、途上国に対する諸援助等と、衛生、食糧面での民間レベルの援助が期待されている。



組織拡充への道

組織拡充五か年計画ケーススタディ

その1 東京連盟保谷第一団の活動

平成六年度より組織を挙げての取り組みが開始された「第二次組織拡充五か年計画」。二月号での特集に続き、今回は平成七年度登録が対前年比三〇名増の一六〇名で、特にビーバー隊にはこの春一八名もの新入隊員を迎え、新しいスカウトの獲得に成功している東京連盟保谷第一団の方々にお話を伺った。

□ 隊員募集の方法について教えてください。

■ 子どもやお母さんが大勢集まる一〇月の市民祭で大きなモンキープリッジなどを設置してスカウト活動をPRし、その後一〜二回説明会を行って、一二月のクリスマス会で仮入団してもらいます。続いた子は四月に正式な入団となります。ほとんどの方は口コミか市民祭でのPRを見ていらつしやいます。ポスターや市報に出す広告を見てという方はほとんどいません。

□ 学校との連携はいかがでしょう。

■ 団本部を学校の敷地内に置いてもらっていますが、教育委員会へ使用料を支払っています。優遇してもらおうということはとくにありません。パンフレットの配布はご法度です。

□ 活動場所はいかがですか。団で

キャンプ場を保有しているとか。

■ キャンプ場保有どころか毎回活動場所探しに苦労しています。市の全域が住宅地で、地元には手頃な野外活動の場がありません。

□ 育成団体はいかがですか。

■ 地元企業など大口のスポンサーがなく、裕福な団体はいえませんが、財政的には制約も多いですが、そのかわりしがらみがなく自由な団です。

□ そのような状況で、毎年多くの

新入スカウトがやってくる要因は何だとお考えでしょう。

■ 指導者と保護者が仲良く協力しているというこはいいえると思えます。入り口となるビーバー・カプ部門には、あまり経験にこだわらず若く意欲溢れる指導者を配置して、保護者の方々の巻き込みながら活動を盛り立ててもらっています。ビーバーは特に母親の影響力が大きいですが、プログラムは「子どももお母さんも楽しい活動」を目指して、また保護者との懇親会などコミュニケーションも十分にとっています。お母さん方に楽しさを理解していただければ、お子さんをまた連れてきてもらえますし、よそのお子さんにも声をかけていただけます。こうしたお母さん方の口コミネットワークで入団してくる子がほとんどで、我が

団のスカウト勧誘のポイントはここでしょう。入団者の親御さんにはほぼ一〇〇パーセント近い確率で他のお子さんを一人は紹介していただいています。

□ その力は大きいですね。ところで保護者の方にはなるべく活動にはノータッチでいたいというような空気はありませんか。

■ 「お子さん優先のスケジュールでボランティアのリーダーががんばっているのだから、親御さんも手伝ってください」と日頃から強く協力をお願いしています。お手伝いいただければ親御さんにとっても楽しい経験となる場合が多いですし、ほとんどの隊長さんはそうした楽しさ高じてというパターンです。もちろん我々も常に有望な親御さんに狙いをつけて口説いています。



▶写真1

データ：保谷市の人口は約97,500人。スカウト対象年齢男児の対人口比率は12.6%と全国平均を下回る。

□ 経験豊富な指導者でなければ良いプログラムは提供できない、というようなことはありませんか。

■ 指導者にもスカウト同様、未知のことに挑戦しながら隊の運営を楽しんでやってみよう。その楽しさがスカウトやその家族に伝わっていくようです。リーダーが保護者の皆さんより過度に専門家的になることなく、親御さんと同じ立場から苦楽を共にしていく。一緒に模索していくんですね。もちろん隊長には研修所や実修所など常に技能や知識の向上に努めていただいています。一つの部門に長く留まると興味や体力、

新鮮味などの面で停滞を生みがちです。常に皆が興味と向上心を持って取り組んでいけるように、年間プログラムが問題なく立てられるようになったら隊長はその部門卒業という感じで次の隊長に席を譲ります。新しい隊長の多くはお父さんリーダーですが、経験が少なくても意欲と努力で立派な隊長になれます。

□ もちろん経験組からのサポートがあるわけですね。

■ 様々な部分でありますね。特に営火の演出やスタンツなど、スカウト的なムード作りの面ではシニアやローバーの活躍が不可欠です。彼らに活躍してもらおうと、スカウトたちに先輩へのあこがれという貴重な「継続への動機づけ」ができますし、やはり経験者の支援は心強いものです。

□ さて、多くの新入隊員を迎えるビーバー隊のプログラムはどのように行われているのでしょうか。

■ ともかく野外で元気に遊び、良く歩きます。スカウトの体力を見極めながら距離を延ばしていき、十分に見込みが立てば、保護者同行という条件つきで山歩きにも挑んでいます。

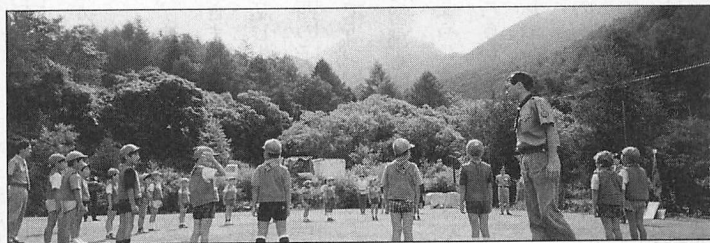
す(写真1)。他に人気のプログラムでは自作段ボールボートでの川下り(写真2)などがあります。

□ 山歩きはビーバーにはハードではありませんか。

■ 日頃から慣らしていますから、ダウンする子はいません。それに、同年代の子が学童保育などで山歩きしているのに、野外活動を売りにしているボーイスカウトが閉じこもってはいられません。とはいえ、十分な準備訓練を経てスカウトや親御さんたちのニーズが満ちてきて初めて挑戦できることです。

ただ、「野外で元気に、楽しく遅く」というような、親御さんがボーイスカウトというものに対して持っているイメージ・期待には誠実に応えていく必要性というか、責任を感じます。組別の第一歩はそこだという気もします。

よりダイナミックな活動というようになことで進めていくと上の部門のプログラムを食ってしまうという声もあります。自ずと身体的・体力的限界や技能の蓄積ということがありますから大丈夫だと思っています。



※□は編集部。■は保谷第1団の団委員長、団委員、リーダーの方々の言葉を集約させていただきました。

約三時間に渡り様々なお話を伺った。その全ては紹介できなかったが、総じて「意欲溢れるリーダーが保護者と一緒に楽しい活動を作り、そしてその評判を口コミで広げてもらうこと」が保谷第一団組織拡張の秘訣のようである。

取材に伺った日、その夜からの隊キャンプの準備に大雨の中てきばきと動くボーイスカウトたちが印象的だった。



誌上ローバーホームート開催

17

到着！ 阪神大震災救援奉仕活動参加者からの手紙

ROVER
MOOT
on PAGES

阪神大震災のレポートの中に、大阪連盟のRS田中君の名前を見つけました。私は一月二六日から二月九日まで芦屋市にて救援活動を行っておりました。田中君同様独自の活動でした。

一月二二日に日帰り一度東灘に入り、その後会社との調整の後に芦屋に入りました。そこには、事務局内で正確な指示を出している田中君がいました。制服姿の私に、「実はぼくも大阪連盟のRSです」と自己紹介してくれました。正直いって、ホッとしました。我々ボーイスカウト、とりわけRS、若手指導者が現地に来てくれた。自分だけではなかった。

現地での活動は、我々が少年の頃から続けてきた訓練、そしてジャンボリー等での経験を、フルに活用するものでした。ローバーリング・ツウ・サクセスの中の「バックウッズマン」、その姿を被災地で活動したRSや若手指導者、そしてすべてのボランティアの人々に見た気がします。

最後に、私の活動に最大限の支援をしてくださった皆さん、とりわけ、家族、職場、団委員の皆さん、ありがとうございました。

そして、「兵庫県（被災地）の仲間たち、がんばれ！」

滋賀・大津第六団 ボーイスカウト隊隊長 中野隆弘

ぼくたちの日頃の訓練・活動はいったい何のためなのか、ということについて一つの答えを見い出す機会になったよね。被災者の方々の方力になった分、自分自身更に成長することができたと思う。

教えてください

スカウティング四月号を読んで、阪神大震災のボランティア活動に関して私の経験を書きたいと思います。

私は兄がローバース会議議長ということもあり、一月二九日～二月五日の第一陣奉仕隊に参加いたしました。奉仕場所は、兵庫駅より歩いて五分くらいの門口公園でした。門口公園はすでに地元の神戸六団ローバー隊がボランティア活動をしていました。

私たちローバース会議奉仕隊は、神戸六団隊長の岩田さんの指示の下ボランティア活動をしてきました。主な活動は、老人と子どもに対するメンタルケア（話し相手になったり一緒に遊んだり）でした。初めは言葉（関西の子どもには関東のしゃべり方はなじみがないので）の違いで近づいてくれませんでした。が、二、三日するうちに私たちの言葉も関西弁になっていて、子どもの方から遊びに来てくれるようになりました。そんなことをして「これは奉仕なのだろうか？」などと、私自身いろいろと考えてしまいましたが、少なくとも子どもたちの笑顔を見ることができたのでよかったのかなと、今は考えるようになりました。（自分勝手にいい方に考えてますが・・・）

さて、今回私がペンを取ったのは、いろいろな角度から今回のボランティア活動を見ていただきたかったからです。誌

これから期待される奉仕は？

震災直後のボランティアの活動は避難生活を送っている人々から非常に感謝され、高く評価されました。ところが一か月半以上たった頃、避難所の住民の一人は「毎朝、ボランティアの方々に励ましや勇気づけの言葉をかけてもらって本当に嬉しかった。でも、今はもう煩わしい。これからは一日も早くプライバシーのある生活がしたい」といっていました。避難生活を送っている方の一番の悩みは、「一日も早く仮設住宅に入ってプライバシーのある普通の生活がしたい」ということだと思えます。また、区画整理をやり直すという情報に、「一体どこに住めるのか」と将来に不安を持っている方がほとんどです。このような不安を少しでも取り除いてあげるのも、これからの仕事だと思えます。

もう一つは「子どもの心のケア」です。震災後日がたつにつれて、被災した子どもたちの負った精神的な傷がクローズアップされています。感受性の強い多くの子どもが、今回の地震で親や兄弟が目の前で焼死したり、遺体を見るなどの強烈な恐怖体験をし、子どもの心理に喪失体験として残りました。この体験から抜け出すには周囲の暖かい目と友人が必要です。スカウティングの楽しさを教えるのも良いでしょう。「スカウティングによるチャイルド・ケア」こそ、今、スカウトに期待される奉仕だと思えます。

大震災で亡くなった五、四〇〇名の方々の冥福をお祈りするとともに、被災地が一日も早く復興し、避難所の皆さんに普通に平穏な日々が戻るよう、心から祈っております。今後被災地に奉仕に行かれるスカウトは、情報提供しますので、一報ください。

神奈川・横浜南央地区 SS/R/S担当副コミッショナー 鈴木武道

鈴木副コミからはロバ通宛ではなく、救援奉仕全般の報告をいただいたのですが、ここに抜粋・紹介させていただきました。様々な問題を抱えながらも自らの力で動き始めている被災地。変化する状況の中でぼくたちは自分ができることを探していくけれど、答に近づくヒントを与えてくれる先輩方がきっと諸君の周りにもいることだろう。

みなさんの考えたこと

面からはわからない活動を個人々々やっているとあります。その内には悩みや喜びなど、いろいろな考えがあると思います。私が今回皆様に知ってほしいことは、喜びです。

私は先ほど書いたように神戸六団ローバー隊とともに活動してきました。その他に、数名のGSとも活動しました。一週間しか活動しなかったのに、まるで数年前からの友人のように今では仲良く連絡を取っています。今度の夏には東京に遊びに来ることになっています。今はいろいろとその話で盛り上がっています。それはジャンボリーでもムートでもやっていることです。ジャンボリーは皆が同じことを考えながら参加していますが、今回はボランティア活動なのでそんなことは考えずに現地に行ったのですが、仲良くなっていました。私が今回嬉しかったことは、「やはりボーイスカウトは関西だろうと関東だろうと皆仲間で兄弟なんだ」ということを再認識したことです。長くなってしまいました。私の経験したことを書きました。私は他にも考えたこと、悩んだことがあります。そこで、今回ボランティア活動をして考えたことなどを、いろいろな角度からボランティアに行きたくても行けなかったスカウト、リーダーに知ってもらいたいと思えます。スカウティング四月号のよいうな事後報告ではなく、もっと「ボランティアとは何ぞや？」みたいな感じで、他のスカウト、リーダーの考えを知りたいです。どうか皆様ペンを取って誌面で全国のスカウト、リーダーに今回の震災を知ってもらいましょう。

東京・港第一六団ローバースカウト隊 斉藤剛郎

物言換法みたいに「働いたあー」という実感は得てらいたと思うけど、彼の地で友情を築いてきた斉藤くんたちのムードが現地の子たちも私たちと与えた方は小さくないと思う。心の交流をぐくんで「笑顔」を見ることはできないもんな。

阪神大震災奉仕者リスト

日本という国にスカウティングが漂着してからこれほどの出来事がいったい何回あったというのか。日々のスカウティングの中で培われた、ぼくらのB-Pスピリットは、頭でわからなくても、言葉で表せなくても、体は動いた。心を動かした。いくら探しても言葉が見つからない。悩んだ人もいるだろう。ボランティアやスカウティングに疑問を感じた人もいるかもしれない。でも、時間は流れる。明日は来る。答は自分で決めるしかない。B-Pよ、我々は平和の騎士と成り得たでしょうか。

この名簿に載っている人以外でも、今回のボランティアに参加したローバーやリーダーは多数いる。すべての人に・・・ご苦労様でした。

東京・港第16団 斎藤達郎(ローバース会議議長)

第1陣 1月29日～2月5日(全10名) 第4陣 2月18日～26日(39名) 第7陣 3月11日～19日(12名)
 第2陣 2月4日～12日(全23名) 第5陣 2月25日～3月5日(14名) 第8陣 3月18日～26日(6名)
 第3陣 2月11日～19日(全24名) 第6陣 3月4日～12日(14名) 第9陣 3月25日～4月2日(3名)

【北海道】		新宿第2団	若生浩一(3)	文京第5団	山口容子(2)	柏第2団	鈴木琢磨(7)
札幌第1団	吉田年成(1,2)		大谷 暁(3)		山田滝大(4)	鎌ヶ谷第1団	鳥羽 良(3)
4団	蛭谷 悟(4)	8団	近藤 修(4)	町田第1団	滝本勝正(5)	野田第4団	吉田知弘(6)
	野宮聖司(9)		林洋一郎(4)	15団	池野 肇(5)		西山大輔(6)
9団	松浦輝昌(5,6)		源田恒房(4)		今井 寛(5)		平野秀典(6)
18団	柳屋雅弘(5,6)	14団	下郡 哲(4)		五十嵐徹(8)	松戸第2団	木名瀬誠司(3)
	高田知哉(5)	15団	嶋津和久(9)		小野史典(8)		竹内政紀(4)
19団	高塚 勇(4)	17団	奈良崇文(4)		今井 豊(8)		加藤正澄(6)
24団	菊地泰弘(4)		新名 博(5)	16団	松広 博(5)	4団	佐藤正幸(5)
27団	諸戸将洋(2)		亀倉和彦(5)	港第3団	森脇祥文(1)	6団	早川和宏(9)
		23団	久保寺雅隆(6)	8団	宮沢利典(2)	8団	田中伸幸(4,6,7)
【東京】		台東第2団	菅沼成史(3)		井出たかお(2)	9団	小島勇樹(7)
荒川第5団	池田 遼(2)	3団	飯田源太郎(1)		梅田佳孝(4)	11団	柴谷英行(3)
	小野治男(2)		平岡 努(7)		井出智之(4)		塩田康博(3)
青梅第2団	金子純成(5)		北島義幸(5,6,7)	12団	森章一郎(4)		河内大祐(3)
	榎戸大吾(5)	5団	吉川真浩(2)		川上浩一(4)		伊豆野健介(4)
	田村 健(8)	7団	山沢朋弘(2,8)	16団	斎藤剛郎(1)		中川公太(4)
4団	見留健志(2,3)		梓田 賢(8)		渋谷浩一(5)	【新潟】	
	坂本正道(2)	多摩第1団	中村英真(2)	【GS東京】		柏崎第2団	小杉克彦(2)
	杉田卓裕(4)	千代田第10団	元井泰子(2)	東京第16団	岡田はる奈(4)		金田良英(2)
大田第15団	井上佳之(3)		横山敦之(3)	61団	大塚ひかり(2)		小林琢成(2)
17団	梶原圭介(3,4)		松山 正(3)		原智佳子(4)		田中雅樹(2)
北第1団	大滝利明(2)		山本将彦(3)	【神奈川】			小泉拓成(2)
	渡辺祐司(3)		飯島 涉(3)	平塚第7団	内海哲洋(7)	【愛知】	
9団	佐藤和正(4)		小暮正樹(3)		橋本寛喜(7)	春日井第2団	安藤 智(4)
	加納貴史(4)		廣田政伸(3)		近江貴生(7)	瀬戸第9団	和田浩史(4)
小金井第2団	斎藤徳之(6)	中野第11団	宮地大介(2)		荒井義浩(7)		川平昌彦(4)
国分寺第1団	佐藤裕一郎(1)	八王子第2団	上村英訓(4)		萩原栄一郎(7)		伯耆弘子(4)
	河原 毅(1)	5団	鈴木与徳(2)		浅井 尚(7)		三輪芳裕(4)
	近藤浩崇(2)	6団	長嶋慶一(4)	横浜第66団	西村圭介(1)		佐野英一郎(4)
小平第4団	荒井 研(1)		森田一光(4)	89団	望月英博(4)		田中孝博(4)
	浅輪 肇(1)	7団	篠原良哉(4)				斎藤雅裕(4)
新宿第2団	長谷 薫(3)	8団	早田政己(4)	【千葉】		西春第1団	夏原拓郎(3)
	小池敦之(3)		中里明日香(4)	我孫子第2団	伊藤弘輝(6)	【富山】	
	坂下寛憲(3)	東村山第2団	土方幸吉(1)		鈴木祐司(6)	滑川第1団	高橋 禎(4)
	大杉健治(3)	福生第1団	楠 浩(7)		坂戸俊介(6)		
	酒井真吾(3)				古橋英之(6)		

★名前の後の()内の数字は、第何陣に参加したかを示します。

投稿随時募集中

〒181 東京都三鷹市大沢 4-11-10

ボーイスカウト日本連盟 広報課

ローバー通信係

FAX 0422-32-0010

さて、阪神大震災被災地へのローバース会議救援奉仕活動のこと、知らない人は4月号の巻頭特集を読んで。で、その奉仕者名簿が届いたので紹介するよ。約1週間毎の交代制。中には何度も入っている人もいる。まずは彼らの活躍に拍手を贈り、今後のことについても考えていきたいね。

スカウト カントリー大作戦

平成7年度「スカウトの日」

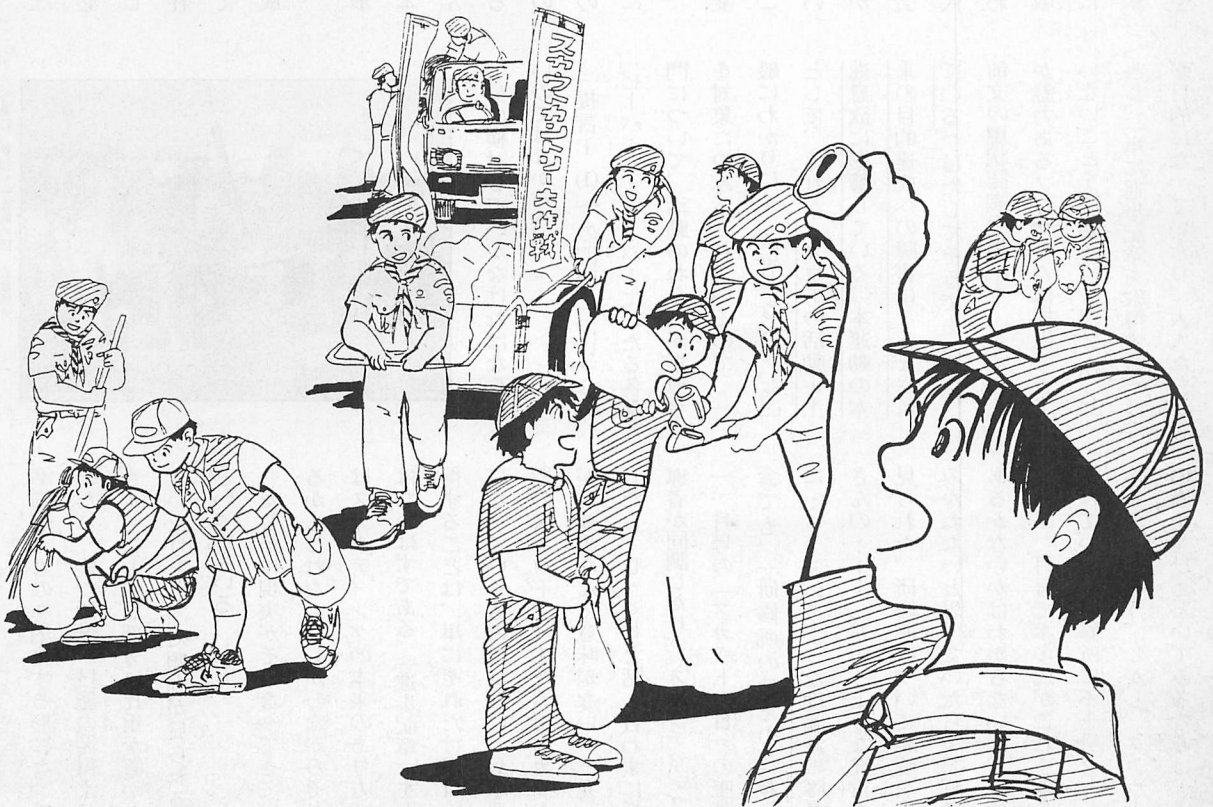
平成7年9月15日(金)の敬老の日に、今年で6年目を迎える「スカウトの日」の活動を全国各地で一斉に展開して、加盟員一人ひとりが地域社会に貢献し、スカウト運動が地域社会に根ざした実践運動であることを広くアピールしていきます。

テーマは「スカウトカントリー大作戦」。地域の環境についてより深く考え、身近にできる活動を展開し、広く社会へアピールしていくとともに、わが国(カントリー)の心豊かな社会を作っていくという気持ちで設定されました。

このテーマの下で、環境を大切にする活動、敬老の日に沿った活動、世界スカウト平和の日に関する活動など、各団、地区、県連盟の状況に応じた活動を展開してください。

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30



あなたの意見を聞かせてください

21世紀委員会答申書と 読者の感想について

兵庫・養父第1団委員長 片岡 昭

日本連盟の二一世紀委員会から答申書が出された。「スカウティング」一二月号に現状認識の要約と提言の全文が載せられ、またこれについて

方向性が、完全なものであるかは今後も各方面でさらに深い議論が必要であろう」といつている。わたしは、おおつかみにいうならば、現在の規約・規定で、その運用を図っていくならば答申の多くの目標を達成することができると思う。

のリーダーの方々の意見・感想が三月号に載せられている。

わたしはまずこれらの答申をまとめられた委員会の皆さんに、これまでの努力について敬意を表したいし、方々から寄せられているリーダーの皆さんに、論議を呼び起こされたことへの喜びを感じる。

私はこの答申について繰り返し読んでいますが、「現在のままでは今後、十分に（ボーイスカウト運動が）その役割と機能を果たし得ない恐れがある」との結論に達した」というところまではどうも納得できない。編集者も、「この答申書に記されていることが、現在のボーイスカウト運動の抱える問題のすべてであるとはいえない。そして、ここで提案されてい

ボーイスカウトの発祥から、進歩と班の制度はスカウティングの基本であった。それはリーダーの皆さんがよく知っておられるところであるが、班制度というのは、「スカウトの希望をプログラムに作り上げるものだ」ということについては、十分にわかっている人が多いように思う。また、「変えてはならないもの、変えなければならぬもの」ということについては、ずいぶん前からいわれていることである。それにもかかわらず、ボーイスカウトには社会性がないとか、子ども会にとって代わられるとかの言葉が聞かれる。わたしたちは、この答申を論議し、取り組むと同時に、今までのやり方について、本当にスカウト運動の基本と社会の動きに対応できているかを



◀ 第一回全国ボーイスカウト写真コンテスト応募作品より
撮影・愛知・一宮第六団 五藤信夫

十分に検討していかなければならぬいではなからうか。

「提言1(1)」の問題については、「ビーバーからローバーにいたる各部門について、活動のねらいが指導者を対象にのみ示されているので、一般にわかりにくい内容になっている」として、それがスカウトの活動・上進意欲に影響している。本運動の本来の目的達成への障害になるとされている。はたしてそうであろうか。前文の現状認識の項でも、「多くの方が魅力あるプログラムは提供できていないことを問題としてあげている」とし、「単に進歩記章を取得するだけが目的になつていたり、大人たちが

準備したものを消化する形になつていたり、また知識や技能の習得よりもイベント的な部分に比重が置かれていたりといった傾向が見られる」といつてもいい。

たしかに現実がそうなつてきているかもしれない。しかしながらそれはスカウティングの本来のあり方ではないはずである。「進歩記章」を取得することは、単にそれだけが目的になつていくものではない。兵庫連盟のスカウトフォーラムでスカウトが「進歩なんて意味がない」と発言したら、じつくりと話し合わずに指導者が同調したり、「スカウティング」一二月号の「スカウトの日」の座談会でも、「研修所の教えのとおりに……:というような理論派の隊長さんの……:」というような発言も見られた。研修所について誤解を生みかねないと思つていたら、誤解であるかないかはわからないが、さつそく一二月号で本多氏がこれを取り上げている。研修所に不十分などころもあるだろう。しかし、スカウトの歴史をひもといてみるならば、そ

のはじめからスカウトのプログラムはスカウトのニーズによって作られるものである。そこにこそ班制度が生きてくるのであり、そこにいくために進歩の制度もあるはずである。これが理解できないなら、何回研修所・実修所に入所しても、肩書き取りにすぎない。

この問題を別にするならば、各部門の特色ある活動や体制作りを常時検討すること、軌道を修正しながら前進することは、提言されているように必要・急務であると思う。

(2)の女子の加入については、いつかはやってくる問題であるが、ボーイスカウトリーダーの初めて取り組む運動である。今までガールスカウトと一緒に行事をやったことがある

という程度で、この問題の理解ができていないなどと思わず、早急な取り組みが、各段階で必要であろう。

私は真摯にこの問題に取り組みたいと思うが、三月号の女性リーダーのように「あつという間にビーバー・カブはお母さんたちに乗っ取られるでしょう。そして、子ども会と何ら変わらない活動になってしまいはしないかと心配します」という発想が、どこから出てくるのか、出てくるのがわからない。

今まで多くの女子リーダーを知っているが、ここにスカウトとして女子が入ってきたら、この方の心配のようなことが起きてしまうのであるか。しかもお母さん方が、ボーイスカウトを乗っ取るようなかたちで参加されるのであろうか？ 指導者講習会や、研修所なんて問題にもならないところなのであろうか。

シニア隊長も定型訓練について、本多氏の意見に同調されているように見える。BSの指導者訓練が、肩書き取り・章章取り・役職取りであるのならば、いくら研修方法を交

えても、BS運営のあり方を考えても、それは空しい。ただ、トレーナーとコミッショナーの関係は、検討が必要であろう。

「提言3(1)」参加しやすい方法で研修方法が考えられるのは賛成である。ところが、(2)では、「外部の専門家を活用して」とある。外部の専門家を活用することに全面的に反対というのではないが、「角を矯めて牛を殺す」というようなことがないように祈る。そして、一般社会からも高く評価される能力を持った指導者が養成できる体制の整備を、首を長くして待っている。

(3)は当然のこと、わたしの団も団委員、リーダーが年中、目を皿のようにして、新しい若いリーダー探しをしているのが現状である。ところが、これが全国的な状況かと思っていれば、前出の本多氏の意見はリーダー不足はないようにも読める。「多くの人が役務を兼務して、より多くの方に参加していただく道を閉ざしている」というのは本当だろうか？ 「定型訓練のいきつくところが、トレ

ナーではスカウト運動に未来はない」といつておられる。同感であるが、あまりに多くの方からこの同じ話を聞くと、弁護側に立ちたくもなる。トレーナーもコミッショナーも、県連役員も、団委員長も謙虚に運動に奉仕する仲間であることに変わりはないと考えたい。

「提言4」については、運動の活性化を図ること、そのために規約・規定の簡素化と、事務局の充実を図ることに賛成である。しかし併せて、それぞれの立場で規約・規定の十分な理解が必要であつて、規約・規定も、会議のすすめ方も無視するようならリーダーを作つてはならない。

最後に始めのことをいうのも変かもしれないが、アンケートについては、設問の仕方を考えてもらつたほうがよかつたのではないかと思つている。

各項目に処理期限が付されているのは新しいことのように思う。性急すぎると思うようなところもあるが、団委員長としてこの答申を謙虚に検討していきたい。



▶ 第二回全国ボーイスカウト指導者コンテスト応募作品より
撮影 千葉・市川第三団 遠藤利朗

日本連盟情報

表彰

スカウト運動をはじめ、様々な分野への貢献に対し受賞されました。

●叙勲・褒章

【藍綬褒章】

宇野眞之氏（日本連盟中央審議会副議長・愛知連盟副理事長）

澤田一精氏（参議院議員・ボーイスカウト振興国會議員連盟会員）

【勲一等旭日大綬章】

村田敬次郎氏（衆議院議員・ボーイスカウト振興国會議員連盟会員）

【勲二等旭日重光章】

三浦祐晶氏（北海道札幌第七団育成会長）

【勲五等双光旭日章】

岡野義則氏（日本連盟中央名誉会議議員・島根連盟理事長）

【勲六等单光旭日章】

故 坂本道男氏（前日本連盟理事・前青森連盟理事長）

●評議員会

三月一七日、東京・国立教育会館で開催された。

会議報告

出席者は佐波正二理事長他評議員二〇名。参席渡邊昭総長。平成六年度補正予算、平成七年度事業計画案・収支予算案、理事の選任・一部交替などについて協議された。

役員

●理事会

三月二八日、東京・経団連会館で開催された。出席者は佐波正二理事長他理事一五名、平山羊介監事。参席山田稔理事代理中浜氏。平成六年度補正予算、平成七年度事業計画案・収支予算案、評議員の選任・一部交替などについて協議された。予算などは、先の評議員会も併せ原案どおり承認されたが、ともによりわかりやすい内容の提示方法が検討課題とされた。

役員

●理事の異動

理事の新規委嘱（学識経験者）

上高真一郎（日本連盟中央審議会議長・東京連盟理事）

理事の一部交替（俱連盟代表）

三月一七日付

東北ブロック代表

（新）和田伸幸（岩手県連盟理事長）

（前）故 坂本道男（前青森連盟理事長）

●常務理事の選任

三月二六日理事会において、上高真一郎理事が常務理事に選任されました。

●評議員の異動

評議員の一部交替（俱連盟代表） 三月二八日付

静岡県連盟

（新）沼野 米（日本連盟中央審議会議員・副連盟長）

（前）故 杉山 立

和歌山連盟

（新）柿 史郎（俱コミッション）

（前）故 濱 光治

●各種委員会委員長および委員の委嘱

平成七年度年次全国会議運営委員会

委員長 若園輝夫（中央審議会議員）

委員 長田光夫（中央名誉会議議員）

福原 洋（京都連盟）

早坂典男（千葉県連盟）

第七回日本アグリーナリー準備委員会の追加委嘱

委員 平出政一（長野連盟）

集会・行事報告

●救急法講習会開設研究会

三月一日～二日、東京・三鷹ボーイスカウト会館で開催された。出席者は伊藤茂健康・安全委員長他スタッフ二三名、参加者八県連盟二〇名。

講習会の開設に重点を置いて講習が行われた。

●平成七年度ウッドバッジ実修所主要スタッフ会同

三月一八日～一九日、東京・三鷹ボーイスカウト会館で開催された。出席者は杉原正ディレクター他副ディレクター三名、主要スタッフ二四名。高橋泰賢指導者養成委員長が参席。六年度のウッドバッジ

実修所の評価反省、七年度のコース開設、「課題研修」課題と「奉仕実績訓練」課題について、それぞれ協議した。

●第一三回富士スカウト顕彰

三月二六日～二七日、東京・三鷹ボーイスカウト会館で開催された。一九三名の該当者のうち一七八名の富士スカウトが出席。二六日はスカウト相互の懇談のほか渡邊昭総長他八名の教育本部役員と懇談し、二七日には東宮御所を参観。皇太子殿下にご接見いただき、その後与謝野文部大臣の表敬、村山首相の表敬訪問を行った。

国際

●来訪者

イギリススカウト連盟より第一八回世界ジャンボリー日本派遣団ホームステイ受入準備説明のため来日。(三月一日～六日)

マイク ウォトリング氏

(第一八回世界ジャンボリーホームステイ責任者)

ニック ヒギンズ氏

(事務局国際部長・第一八回世界ジャンボリー主幹)

●第二二回日米フレンドシップパトリオリーへの参加

三月三十一日～四月二日、東京都稲城市・米軍多摩レクリエーション施設内キャンプタマで開催された。標記大会に日本より四四〇名、アメリカより二二〇名が参加。両国スカウトの親交を深めた。

●平成七年度第一回指導者海外研修派遣

六月一〇日～一八日の八泊九日、アジア太平洋地域リーダーートレーナーコース参加のため、鈴木武道(神奈川)・平田珠子(福岡)の両副リーダーートレ

ーナーをシンガポール・サリンバンナショナルトレーニングセンターへ派遣する。

訃報



これまでのボーイスカウト運動へのご尽力に感謝申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

山本富雄氏

(ボーイスカウト振興国会議員連盟会員)

三月一六日 六六歳

渡辺晶一郎氏(広島県連盟名誉会議議員)

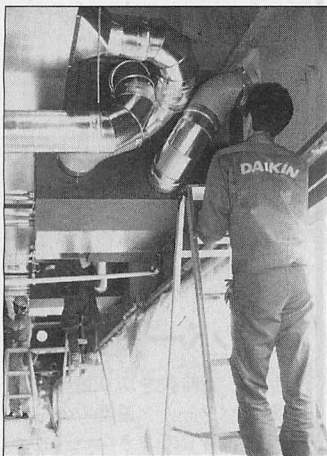
四月九日 七七歳

吉井政人氏(評議員・北海道連盟副理事長)

四月一〇日 六九歳

●三鷹ボーイスカウト会館空調設備改修工事

東京・三鷹のボーイスカウト会館の空調設備老朽化に伴い、ダイキン工業株式会社(代表取締役会長山田稔・ボーイスカウト日本連盟理事)から多大な協力・支援を受け、改修工事が進められている。完成予定は六月中旬。



阪神大震災救援奉仕活動参加者の皆様へ

日本連盟では、阪神大震災での現地救援活動に直接携わった方全員を対象として、感謝状を贈り表彰しております。諸事情により県連盟への申し込みを省略して現地救援活動に携わった方も表彰の対象となるため、調査を行っております。奉仕申し込みを省略して活動に参加された方、および大阪連盟の傘下で奉仕活動に傘下された方は、所属県連盟へお申し出ください。

なお、兵庫連盟および大阪連盟所属の参加者の方は、多数の団関係者の方の労に応えるため、活動参加者を出した団に対して感謝状を贈り表彰しております。

●荒尾理事に韓国連盟より国際友誼章

四月二〇日、東京・国際文化会館において、ボーイスカウト韓国連盟より、荒尾雅也理事(前日本連盟事務局長・写真右)に対し、国際友誼章(World Brotherhood Medal)が贈られた。荒尾理事の韓国ボーイスカウトとの親善・交歓への貢献を称えたもので、韓国青少年団体協議会副会長として来日した承柄九(スン・ビ



ユング) 韓国連盟事務総長(写真左)により伝達された。受章式には吉田国際コミッション他日本連盟国際関係役員が同席。

利用時間 午前9時30分～午後4時（月～金）
（事前に電話連絡をしてください）日曜、祝祭日、年末年始は休み



資料
センター

新 着 図 書

書名・副書名・副題	著者・編者・訳者／発行者	出版年
・ 青少年白書 平成6年度版 青少年問題の現状と対策 総務庁青少年対策本部／大蔵省印刷局		平成7
・ 高校生ライフスタイル調査一日・米・台湾 高校生調査一 日本青少年研究所		平成7
・ 不登校児家族のサポートに関する臨床的研究 伊藤忠記念財団		平成7
・ 学校保健統計調査報告書 平成6年度 文部省／大蔵省印刷局		平成7
・ 学校基本調査報告書（初等中等） 平成6年度 文部省／大蔵省印刷局		平成6

次の方々から資料をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

伊藤隆氏（愛知）

第30回全国身体障害者スポーツ大会アルバム 平成7

わかしゃち国体 第49回国民体育大会名古屋市記録写真集 平成7

（ボーイスカウトが奉仕しています）

京都・下鴨神社ボーイスカウト育成会（京都第68・80・81団）

糺の杜一下鴨神社ボーイスカウト創立20周年記念誌一 平成6

神奈川・ボーイスカウト横浜市連絡会

横浜市ボーイスカウト海外派遣団アメリカ（グアム）親善訪問団 実施要領

平成7

滋賀連盟

蒼き草原より未来へ 第11回日本ジャンボリー報告書 平成7

探しています

- ・ 少年団時代の制服
- ・ 昭和16年頃発行された「少年団手帳」

以上、2件についてどんな情報でもよいので、
資料センター宛ご連絡ください。

●この新着図書情報は、皆様からの情報の提供や書店での情報、書評を参考にして入手しているものです。
内容についてのお問い合わせは資料センターへ。入手希望の場合は、直接書店へ申し込んでください。

$$① + ② = ③$$

TADAS BOOKSは

①熱意あるく活動を

②アイデアいっぱいの企画で

③役立つ記録に仕上げます。

その費用対効果はご期待以上です。
ぜひお試しください。

例えば……

25周年記念誌

「おめでとう」だけで終わらせたくない団再発見の文集&アルバム。

夏季隊キャンプ 報告書

感動・自信・汗・涙……スカウト一人ひとりがドラマチックに綴るひと夏の体験集。

富士スカウト 個人プロジェクト

継続は力なり。こつこつと積み重ねてきたスカウトの青春記。大いに誇れる書。

ローバー紀行

新世界、新時代を切り拓く若人の熱血パワー。〈遍歴〉のしめくりに著しておきたい。

派遣団リポート

やがて薄れる記憶より、確かな記録で紹介する世界兄弟愛運動の素晴らしさ。

団年次報告

新規加入者への説明資料も兼用できるビジュアル版「成長の過程」。

富士スカウト4兄弟の店

糺 (ただす) 書房

PLAN・PRINT・PUBLISH

〒606 京都市左京区田中大塚町129番地
TEL.075-781-8925 FAX.075-711-5430

子ども環境クラブ(仮称) 会員募集



いったさまさまざまな環境保全活動を、
楽しみながら実践してもらいます。

募集 平成七年度の会員を募集。

(平成八年三月まで活動)

応募資格

小・中学生で、環境保全活動に関心のある数人のグループ。地域子ども会などの団体や、環境に興味のある小・中学生が集まって、グループ単位で応募。

申込受付開始

平成七年六月一日

問い合わせ先

環境庁企画調整局

環境保全活動推進室

☎〇三(三五八)二三五

(財)日本環境協会

☎〇三(三五〇八)二六五

環境庁と、(財)日本環境協会では、子どもたちがそれぞれの地域で楽しく環境学習・保全活動が行えるよう、平成七年度より子どもたちのための環境クラブ(仮称)を発足させます。小・中学生のグループで、身近な生き物の観察やタウンマップづくりと

隊指導者のための

「スカウトの

信仰への導き」

日本連盟宗教委員会

—15—



自然とともに

小林一茶は、蛙や蠅にまで目をやる俳人として有名です。実は熱心な浄土真宗の門徒として、自然とともに暮らし、俳句を詠んでいました。

柳は緑 花は紅の うき世かな

「禅宗でよく使う仏教の極意」花は紅 柳は緑」を詠んでいるのです。

星の王子会第一〇回記念集会について

大阪・大阪第一五五団SS隊長
西野昭三郎(星の王子会幹事)

「星の王子会」とは、団運営研修所大阪第一期の同期会であり、所長の星野信二先生の名から付けられたものです。平成三年九月修了後、年三回の集会で親交を深め、本年三月一日には、記念すべき第一〇回を迎えるに至りました。

はじめに阪神大震災の被災者に対し、黙祷を捧げました。今回は、星野先生が、大阪府教育委員会より表彰を受けられたので、その祝賀も兼ねての会で、表彰状のご披露と一同からの祝意を表しました。その後星野所長の団研一期の延長特別セッションとして記念講演があり、今我々はスカウティングにおいて何をなさ

ねばならないかを説かれ、一回深い感銘を受けました。

引き続き懇親会に移り、山本和俊主任所員の挨拶、顧問の中村遼太郎大阪連盟事務局長の乾杯の発声にはじまり、和やかに話の弾む中、各々課題の発表があり、実に格調の高い、楽しいつどいに時のたつのも忘れる始末。最後に椿本安彦所員の発声で「いやさか」を唱え、次回六月の再会を約し散会しました。

尚、今回会員の中から、団研修了後の活躍ぶり、今考えている事等の原稿を集めています。集まれば、星野先生の記念講演の内容と共に、文集として出そうと思っています。

意味は、世の中の真実は自然そのもの(あるがままの世の中)であり、

私たちはいつも自分を飾って偽りの生活をしている。これで良いのだろうか、というものです。

私たちはもつと自然に目を見開き、その中の自分に気づく必要があるのではないのでしょうか。
高輪真澄



第22回 全国ポニーイラスト写真コンテスト

主催 財団法人 ポーリスカウト日本連盟
協賛 富士写真フイルム 株式会社
株式会社 日本カメラ社
審査委員長 秋山庄太郎氏

PART 2

青年・成人の部入賞作品発表

☆ 最優秀賞

赤廣三郎

長野・松本第4団 シニア隊隊長

◀ 「今、私たちにできることは・・・」

(阪神大震災救援ボランティア活動への取組)

シニアたちと、炊き出しの活動に、テント生活をしながら取り組みました。冷えた身体の被災の皆さんに、ひと声かけながら豚汁を提供。じつくりと腰をおろして話を聞く心のケア。まさにたのもしいシニアたちの働きぶりでした。



評 災害の中の親子、おばあさんと人物が2枚あって、家々の残骸の景色が1枚あって、それぞれの写真も上手ですが、組み写真の選び方としても上手いですね。

☆優秀賞

「ぼくちゃん

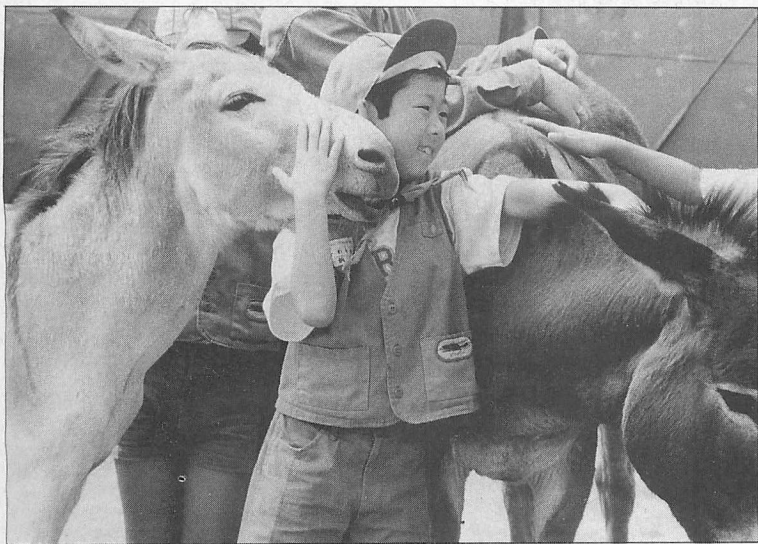
仲よくしようヨ」

池田公延

栃木・河内第1団 副団委員長

遊び相手不足のロバ君、ビーバーが小屋の掃除に行っ
たところをつかまえて、「ネ、仲よく遊ぼうよ」と。

評 ロバの中にこの少年がとても良く溶け込んでいます。
簡明直載に撮れていますね。ロバの顔さえ嬉しそうです。



☆優秀賞 渡辺 保 群馬・前橋市

「第二原画」 前橋第3団の20周年式典にて。
模範演技、ふぞろいなのが愛敬でしょうか。

評 これは訓練の模様を非常に明るくきれいに遠近をつけていて、
絵面としては一番鮮明できれいですね。

— 入 選 —



▲「長与川のともだち」

秋田 浩 長崎・長崎第10団 ボーイ隊副長

隔月の長与町町内の川清掃の際、スカウトが食用がえるを
捕まえ、観察し、川へ戻した。

「木のぼり名人」▶

坂東俊枝

大阪・島本第1団 カブ隊副長

(右から)
今月の隊集会の関所の1つでは、木のぼりがテーマ。みんなうまい!!
こんなのひよいひよいひよいだよ〜。
ぼくちょっとこわいけど…どう、できたよ。





▲「ありがとう」

高森昭造 熊本・熊本市

純真な心と心のふれあう1コマです。

◀「団結もちつき大会」

加藤新治

大阪・大東第2団 シニア隊隊長

一年最後の行事で、10数年続けられているそうで、この日ばかりは全員の父母も参加し、団の親睦を目的に、全員がもちつき、新しい年を迎えるそうです。



▲「よし、いくぞ」

畑中範子 千葉・浦安第2団 ビーバー隊会計

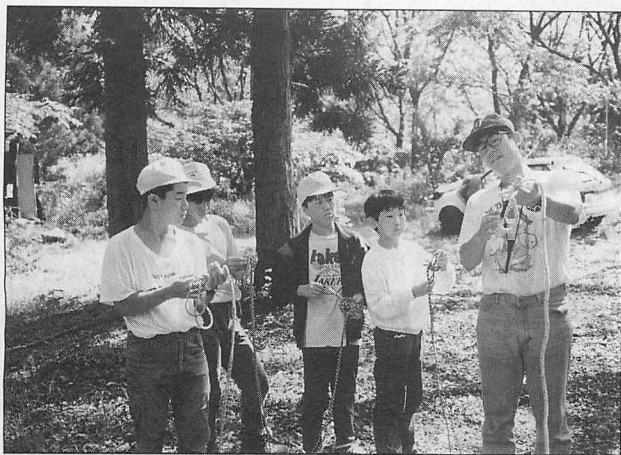
自分たちで作った大根鉄砲で、副長に向かっていく姿がかっこいい！



▲「火おこし」

石川朱美 愛知・名古屋第102団 団委員

雨が降ってなかなか大変な作業でした。昔の人は、大変だったでしょうね。



▲「真剣なまなざし」

大野嘉彦 新潟・新潟第5団 ボーイ隊隊長

これから地上5mのロープ渡りをするために、安全帯を作ることにになり、真剣なまなざしで学んでいるところです。



▲「歌おう!! 元気!!」

笠間 進 群馬・山田郡

サマーキャンプでの1コマ。雨天のためファイアーができず、バンガロー内での組ごとの発表となりました。劇の後の歌です。



▲「帰路・無言」

飯田恒雄 神奈川・足柄上郡



▲「さあ、できたかな？」

富田則幸 熊本・熊本市

子どもたちは何でも興味津々。この日は、大人は一切口を出さずに自分たちでメニューから材料揃え、調理まで全部やりました。



▲「朝の陰」

村田安雄 滋賀・大津市

寒い朝(向こうの山には雪が残っています)朝礼の前に子どもたちが集まって話しています。長い陰が印象的でした。



▲「募金活動」

加藤悦子 秋田・秋田市

朝早くから募金活動ごころう様です。

入選おめでとう!

賞品はこちらです!

第22回全国ボーイスカウト写真コンテスト

少年の部

青年・成人の部

★最優秀賞(賞状)



☆副賞

マウンテンバイク

☆富士フィルム賞

ショルダーバッグ

☆ボーイスカウト賞 盾



★最優秀賞(賞状)



☆副賞

天体望遠鏡

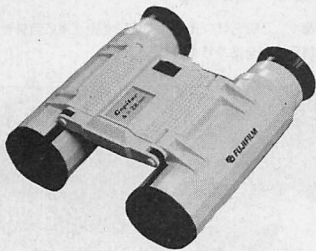
☆富士フィルム賞

トラベルバッグ

☆日本カメラ賞 盾



★優秀賞(賞状)



☆副賞

図書券 ¥10,000分

☆富士フィルム賞

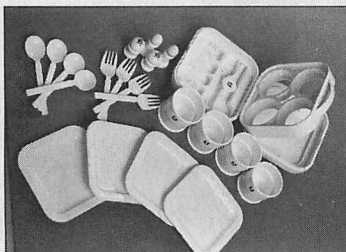
オペラグラス

☆副賞

図書券 ¥3,000分

☆富士フィルム賞

ピクニックセット



★優秀賞(賞状)



☆副賞

図書券 ¥10,000分

☆富士フィルム賞

カシオアラーム

クォーツ

☆副賞

図書券 ¥3,000分

☆富士フィルム賞

レジャーチェア



★入賞(賞状)

★入賞(賞状)

ボーイスカウト運動のために

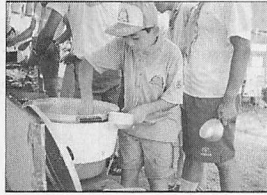
維持会員加入のご案内

この運動にあなたの財政的なご援助を

ボーイスカウト運動は、1907年に英国のバーデン-パウエル卿を創始者として始まり、現在、世界136か国1,700万人が参加している運動です。日本では1992（大正11）年にボーイスカウト日本連盟が結成され、以来70年あまりの間、次代を担う有為の青少年を育成することを目的に活動を続けて参りました。

これらの活動の財政基盤は、加盟員の登録料、ボーイスカウト用品の売り上げからの繰入金、そして皆様からの維持会費をはじめとする各種寄付金、補助金を収入の三本柱として運営されております。

皆様からのご厚志は、●ジャンボリー等各種大会の開催、●国際社会で活躍、貢献できる人材育成のためのプログラム開発、●国際交流事業の積極的展開、●野外教育活動の幅広い展開のための野営場、研修宿泊施設の増設並びに拡張強化、●ボランティア指導者の育成強化、に活用され、ボーイスカウト運動の一層の発展のために役立てております。



維持会員の種別と会費

維持会員は、個人と法人に大別され、以下の要領になっています。会員としてお申し込みいただきますと、ボーイスカウト運動にご賛同くださる証として入会時に、会員章をお贈りいたします。

会員の種別		会費
個人	通常維持会員	年額1万円以上
	特別維持会員	年額10万円以上
法人	法人維持会員	年額10万円以上

ボーイスカウト日本連盟は文部大臣より「特定公益増進法人」の認可を得ています。

維持会員のお申込

このページの申込書を切り取り、必要事項を記入、捺印の上各都道府県連盟事務局またはボーイスカウト日本連盟にお申し込みください。

納入方法

会費の納入は、次のいずれかの口座宛にお願いいたします。

1) 郵便振替の場合：00130-1-56119 (財)ボーイスカウト日本連盟

2) 銀行振込の場合：三和銀行武蔵境支店 (普通) 310054

三菱銀行三鷹支店 (普通) 4001756

富士銀行調布支店 (普通) 548079

口座名：(財)ボーイスカウト日本連盟

ご支援ありがとうございます

*維持会員（平成7年3月に会費を納入された方々・敬称略）

【青森】 桐原 道哉	【東京】 鎌田 弘幸	山田 孝夫	【京都】 浅川 栄治郎	丸山 雄章
【宮城】 大沼 迪義	宇田川 裕二	後藤 幸夫	【兵庫】 林 春長	BS大阪連盟
【秋田】 三浦 昭雄	【岐阜】 日本BS総連盟育成会	BS春日井第1団	津田 芳宏	【山口】 小田 清彦
【山形】 石山 清五郎	中島 真一	BS春日井第2団	橋本 健司	【愛媛】 西条市BS育成会
【茨城】 宗形 欣司	斉藤 元治	BS春日井第3団	城戸 重雄	【福岡】 平 聖峰
【埼玉】 河野 正道	中條 昭孝	BS春日井第4団	松川 成一	【長崎】 (医) 済家会
【千葉】 塚原 孝治	渡辺 光雄	BS春日井第5団	佐藤 一弘	【熊本】 トヨタコロラ熊本隊
【千葉】 堀 秀成	伊藤 義弘	BS春日井第10団	奥田 雅晴	【和歌山】 吉井 紀元
【山梨】 古屋 政美	岩田 誠吾	BS小牧第1団	【和歌山】 奥田 雅晴	【鹿児島】 【鹿儿島】 吉井 紀元
	永田 明夫	BS小牧第2団	【和歌山】 奥田 雅晴	【日本連盟】 BS土岐第1団
	井田 勝造	BS小牧第3団	【大阪】 湯川 泰雄	
		BS小牧第4団	BS奈良第19団	
		【滋賀】 井田 勝造	BS枚方第14団	

財団法人ボーイスカウト日本連盟

維持会員申込書

ボーイスカウト運動の趣旨に賛同し貴連盟維持会員として、次のように申し込みます。

記

個人維持会員	通常維持会員	年額10,000円以上	
		年額	円也
特別維持会員	特別維持会員	年額100,000円以上	
		年額	円也
法人維持会員	法人維持会員	年額100,000円以上	
		年額	円也
県連盟還付		要・不要	

1. 郵便振替をご利用の場合（手数料は当連盟で負担いたします）

00130-1-56119 (財)ボーイスカウト日本連盟

（郵便振替をご利用の場合は本申込書は不要です）

2. 銀行振込をご利用の場合

三和銀行武蔵境支店 (普通) 310054

三菱銀行三鷹支店 (普通) 4001756

富士銀行調布支店 (普通) 548079

口座名 (財)ボーイスカウト日本連盟

年 月 日

郵便番号

住 所

氏 名

所 属 団

県連盟

ご紹介者

県連盟

氏 名



◀ 第一回日本ジャンボリーより

お問い合わせ先

ボーイスカウト日本連盟総務部管理課 0422-31-5161

◀ この用紙をお使いください

必要事項をご記入の上、ボーイスカウト日本連盟事務局または各都道府県連盟事務局にお申し込みください。各都道府県連盟を経由してお申し込みいただいた場合には、維持会費の半額を指導者養成事業補助金として県連盟に交付いたします。

5月

テーマ	開拓者は行く
目標	<通信>手旗信号を完成させる。その他にモールスなどの通信手段もあるので勉強する。 <計測>簡易測量器の作製、実際に計測に用いる。野帳の書き方をマスターして略地図なども作製してみよう。
隊プロ	ハイキング。考查・面接。
班プロ	班ハイキング。簡易測量器の作製。野帳の書き方。
個プロ	手旗信号の練習。歩測。スカウトベースの練習。
進級課目	
2級章	4-(1) 100m歩測誤差5%以内。5-(2) 手旗信号、50音と数字の発信と受信。9-(1) ハイキング章修得(班ハイキング参加)。
1級章	4-(1) 自作の簡易測量器の使用して高さを測る。5-(2) 片かな手旗信号の発信と受信。
菊章	
特修章	8計測章 9通信章
行事	11日県連年次総会 25日野営法研究会
祭日等	3日憲法記念日 4日国民の休日 5日こどもの日

6月

テーマ	希望を胸に
目標	<社会奉仕>公共施設(老人養護ホーム、養護施設など)への訪問、地域社会への奉仕を行う(清掃、地域行事への奉仕)。また、今の時期は湿度も高いのでキャンプ用品のチェックをしよう。
隊プロ	養護施設への訪問。夏季キャンプに向けてのキャンプ用品の整備。
班プロ	養護施設訪問の準備。班備品の整備。
個プロ	奉仕について考える。個人キャンプ用品の整備。個人キャンプ用具の作製。
進級課目	
2級章	12-(1) 社会奉仕活動10時間以上。
1級章	10-(1) キャンピング章の修得。
菊章	4-(1) キャンピング章(1級で修得済み)
特修章	14キャンピング章 17近隣奉仕章
行事	4日スカウトラリー 25日県連年次表彰
祭日等	



7月

テーマ	北北西に進路をとれ
目標	<地図とコンパス>スカウトはいつも正しい道を発見できるように備えなければならない。方位角、標高差、歩行距離など読図をマスターする。コンパスの使用にも慣れること。
隊プロ	ハイキング。次年度のプログラム作成。
班プロ	班ハイキング。地形図を使用する。コンパスの使用法。三角点、水準点の発見。次年度のプログラム作成。
個プロ	地形図に座標線をいれ、座標を読む。コンパスに慣れる。
進級課目	
2級章	9-(1) ハイキング章の修得。
1級章	8-(1) 地形図上に示された2個の目標物と現地点の方位角、歩行距離の読図。
菊章	2-(1) 天体による方位発見法5つと北極星による方位発見法2つ。
特修章	12読図章 13ハイキング章 19天体宇宙章
行事	9日指導者講習会 26~30日第7回日本アグーナリー
祭日等	20~8月31日夏休み 28~30日夏祭り

8月

テーマ	ブラウンシー島をめざせ
目標	<キャンピング>年間プログラム最後の月。1年間活動してきたことを長期キャンプで発揮しよう。また、1年間の反省と評価を行い、次年度のプログラムも作る。
隊プロ	隊キャンプ、キャンプの片づけ。考查・面接。次年度プログラム作成会議。
班プロ	班キャンプ、キャンプの片づけ。次年度プログラム作成会議。
個プロ	個人装備の確認。任務の確認(1年間の反省と評価)。
進級課目	
2級章	
1級章	10-(1) キャンピング章の修得
菊章	1-(1) 活動への積極的参加(4か月以上) 4-(1) 特修章10個以上。5-(1) 技能章1個以上。
特修章	5安全章 6水泳章 20郷土文化章 21情報処理章
技能章	1野営章
行事	
祭日等	夏休み(30日まで) お盆



★この「ボーイスカウト隊 プログラムヒント」は、うしろ側四一頁よりお読みください。

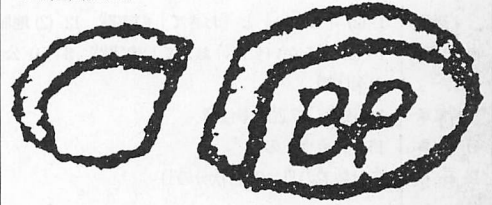
1月

テーマ	心新たに
目標	<基本>新入隊員も初級スカウトになったので、改めて基本について確認すること。まだ進級していないスカウトはチャレンジして進級しよう!! <体力増進>健康な体には健全な精神が宿ります。寒さには負けない体力作りとスキー教室を開催する。
隊プロ	スキー教室
班プロ	運動能力テストに挑戦。健康に害のあるものについて話し合う。国旗の掲揚法。
個プロ	体力づくりの習慣をつける。
進級課目	
2級章	1-(3) 国旗の意味、歴史。国旗を正しく掲揚する。
1級章	1-(3) 日本の国旗と外国旗を併せて掲揚。
菊章	
特修章	1公民章 2世界友情章 4健康章
行事	3日初詣り、餅つき大会
祭日等	1日元旦 15日成人の日



2月

テーマ	偉大なる足跡
目標	<スカウト精神>今月はB-Pの誕生日です。B-Pの足跡を知り、スカウティングの歴史、世界のスカウト運動を調べる。また、今月は班ハイキングを行い、ハイキングの企画をしてみる。
隊プロ	地区B-P祭参加。考查・面接
班プロ	B-P祭準備。スカウティング・フォア・ボーイズを読む。班ハイキング。
個プロ	B-P最後のメッセージについて考える。
進級課目	
2級章	9-(1) ハイキング章の修得 (班ハイキング参加)
1級章	9-(1) 自然保護活動や社会奉仕活動を取り入れたハイキングの企画。
菊章	4-(1) ハイキング章の修得 (2級で修得済み)
特修章	2世界友情章 13ハイキング章
行事	18日地区B-P祭
祭日等	11日建国記念日



3月

テーマ	ナナイチ救急隊
目標	<救急>救急法を身につけることは“奉仕”にそなえることです。「ボーイスカウト救急法」を基に、各級における救急法の実技、病気の原因や処置法を学ぶ。2級スカウトで1級章課目をほぼ終了したものは1級挑戦キャンプにてかけよう。
隊プロ	隊キャンプ。救急法、人工呼吸。
班プロ	救急法の一般注意事項を考える。応急手当。班キャンプの実施と献立。
個プロ	個人救急品キット作製。
進級課目	
2級章	1-(1) 積極的な参加。2-(1) 応急手当6種。2-(2) 蛇、犬に噛まれたときの応急処置と熱中症の予防と応急手当。10-(1) 個人装備を携行し4km以上歩行。10-(2) 班用テントの張り方、手入れと格納の実施。
1級章	2-(1) 応急手当9種。2-(2) 止血法。2-(3) 骨折。2-(4) 急造担架。2-(5) つつが虫病、破傷風の予防法。10-(2) 1級章挑戦キャンプ。
菊章	1-(3) 班長など通算6か月以上つとめ、隊活動に協力。
特修章	3救護章 11野外料理章 14キャンプ章
行事	16日継続登録
祭日等	20日春分の日

4月

テーマ	行脚(あんぎゃ)のおきて
目標	<野外料理>料理はおいしくて簡単、腐りにくく、軽くてもちやすい、また非常食にもなるなど、いろいろな要素を考え、調理器具以外の自然物などの利用など、楽しい内容を考えよう。
隊プロ	隊キャンプ(料理コンテスト)。緑の羽根募金。
班プロ	デイキャンプ。野外での料理を発明し、作ってみる。防水マッチの作製。
個プロ	野菜、魚、肉、卵を材料とした料理を家庭でつくる(練習)。
進級課目	
2級章	7-(1) ナイフ・のこぎりの使用と手入れ。7-(3) マッチ2本以内で火起こし。7-(4) 飯ごうを使って米飯、みそ汁を作る。
1級章	1-(1) 積極的な参加。7-(1) 班用かまど2種以上。7-(2) 薪以外の燃料2種以上。7-(3) 野外料理。
菊章	
特修章	11野外料理章 15自然愛護章
行事	6日緑の羽根募金
祭日等	入学式 29日みどりの日



9月

テーマ	フレンドシップ
目標	＜基本＞今月は新入隊員が入隊や上進してきます。2級以上のスカウトも、もう一度基本を確認すること。 ＜社会奉仕＞カントリー大作戦、地域のお祭り、団本部付近の清掃など、まず自分の近くから奉仕活動をする。
隊プロ	隊キャンプ（歓迎キャンプ）。カントリー大作戦を展開。
班プロ	班の役務分担。班内のルール（班精神、班呼、合図など）確認。ぼくらの町の地図作製（白地図を作製し、奉仕活動エリアを書き込む）
個プロ	ちかい・おきての意味がいえる。
進級課目	
初級章	1-(2)「ちかい」と「おきて」について話し合う。1-(3)スカウト章・モットー・スローガンの意味の説明。4-(1)身振り信号、笛の合図、暗号を覚える。6-(1)社会奉仕活動に積極的に参加する。
2級章	1-(2)「ちかい」と「おきて」の実践。12-(1)社会奉仕活動10時間以上。
1級章	1-(2)「ちかい」と「おきて」の実践。12-(2)地域内の案内。
菊章	1-(2)「ちかい」と「おきて」の実践。3-(1)公共施設への奉仕等。
特修章	1公民章 17近隣奉仕章
行事	15日スカウトの日
祭日等	15日敬老の日 23日秋分の日

10月

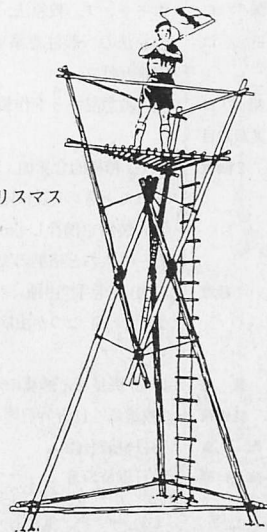
テーマ	豊かな実り
目標	＜観察＞足跡推理、石こうどり、木の葉印刷などを使用してハイキングでの自然観察に挑戦してみよう。「スカウトやただの石でも目が光る。」 ＜ハイキング＞日頃、鍛えた観察力を追跡ハイキングで発揮しよう。そのためには、ハイキングについて研究しておくこと。
隊プロ	追跡ハイキング
班プロ	植物図鑑作製（石こうや木の葉印刷などを使用して）。ハイキングの研究（注意事項、パトローリング、装備、計画書、報告書、など）。班ハイキング。
個プロ	追跡記号を覚える。スカウトベースの練習。植物の研究。
進級課目	
初級章	2-(1)体温、脈拍の測定。3-(1)体を使った計測。
2級章	3-(1)植物の見分け。5-(1)追跡記号10以上。8-(1)16方位と方位角。コンパスで進路発見。9-(1)ハイキング章修得（班ハイキング参加）。
1級章	3-(1)動物の生態観察と報告。5-(1)追跡記号（通信文を含む）の設置。8-(2)地形図記号と地点・地物の発見。
菊章	
特修章	7観察章 9通信章 13ハイキング章
行事	10日市民体育祭
祭日等	10日体育の日

11月

テーマ	驚異の自然
目標	＜自然愛護＞地球環境を守るため、資源の大切さ、公害、自然の循環など知る。エコ実験、エコ用具の作製なども行う。9月に入隊・上進したスカウトは初級課目を確認し、ちかいをたてて初級スカウトになろう。また、初級スカウトで2級章課目をほぼ終了した者は、仕上げの10kmハイキングを企画・実施しよう。
隊プロ	ちかいの式、ハイキング（エコ実験）。考査・面接
班プロ	環境の原因について話し合う。地域の自然愛護の調査と改善。エコ用具の作製。
個プロ	資源の大切さを考え、実行する。
進級課目	
初級章	1-(1)活動の参加。1-(4)日本の国旗。5-(1)なわ結び5種。
2級章	7-(2)野火の注意。11-(1)水、酸素の循環と汚染。9-(2)2級章挑戦ハイキング（10km）。
1級章	11-(1)地域の主な公害の種類と原因。
菊章	4-(1)自然愛護章の修得。
特修章	4自然愛護章 18環境保護章
行事	
祭日等	3日文化の日 23日勤労感謝の日

12月

テーマ	ナイスバランス
目標	＜なわ結び＞結索ボードの作製や縛材キット（日連需品）の作製。また、実際に信号塔などの縛材を行う。
隊プロ	信号塔の構築
班プロ	結索ボードの作製。コマンドロープの作製。
個プロ	なわ結びの練習。
進級課目	
2級章	6-(1)なわ結び8種
1級章	6-(1)なわ結び5種
菊章	4-(1)結索章
特修章	10結索章
行事	24日クリスマス会
祭日等	23日天皇誕生日 24日クリスマス



ボーイスカウト隊 プログラムヒント



ボーイスカウト隊 プログラムヒントの連載にあたって

日本連盟プログラム委員長 犬飼康元

このコーナーは、ボーイスカウト隊のプログラムの活性化をはかる一助として、ゲームや歌（月々のテーマソング）などで構成するプログラムヒント集です。多くの指導者の方々に活用いただけるよう、毎月皆様にスカウティング誌を通じて紹介していきます。今回、最初に年間プログラムの一例を示しますので、皆さんの隊の班長会議で隊の一年間の目標・訓練内容・進級などを理解・把握する際のヒントとして活用してください。コーナーは来月より、毎月2か月先行で各月のプログラムヒントの詳細を紹介していきます（7月号で年度始めの9月のプログラムを紹介）。各月のプログラムは今回紹介した年間プログラムの進級計画などに基づき対応しているものです。

この連載コーナーをヒントに、皆様の隊のプログラムがより一層充実し、スカウトたちのプログラム展開が楽しく広がることを期待します。

このコーナーについて

次号より紹介される各月のプログラムヒントは具体的に示されます。ゲームの選択や地域性の加味など、班長会議でよく話し合い各隊のプログラムを完成させてください。隊における役割分担、グリーンバーへのアドバイス、班集会の活性化、外部の専門家の協力などの考慮をお願いします。

この年間プログラムでは野外活動を重視するスカウティングの精神を尊重し、大小多くのハイキングを考えています。より多くの活動が野外で実施されることを期待します。

実際にプログラムを組み立て実施し、評価・反省するのは各隊指導者と班長会議の共同作業によるものです。より良いプログラムを作られ、そしてぜひその成果をご報告いただきたいと思います。全国のボーイ隊の知恵と工夫を集約し、さらに充実したヒント集を皆さんと一緒に作っていききたいと思います。

日本連盟プログラム委員会

ボーイスカウト隊級別進歩の目安（隊長ハンドブックP86）

(学年)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(月)
小5			(カブ)						ボーイスカウト (3か月)				
小6									初級(12か月)				
中1									2級(16か月)				
中2									1級(12か月)				
中3			菊(5か月)							(シニア)			

この進級目標は、おおよそそれぞれの課目に費やされる期間を見て設定した一つの目安で、この通りにすすめる必要はありません。ただし、ある級が長引けばどこかでしわ寄せがきて、なかなか菊まで進級できません。

年間プログラムのポイント

1. ビーバーからローバーまでの一貫した流れの中のボーイ隊（4年間）での一年間であることを考慮。とくに進級はどのように進んでいくのか目安を作成する。（左参照）
2. プログラムは9月で始まり8月の夏期キャンプで最高潮になるよう編成する。
3. 毎月のテーマはスカウティングの4つの柱、基本（人格）、健康、技能、奉仕（社会生活）のバランスを考え、設定した目標に沿うこと。
4. 異動（入隊・上進者など）に対する配慮をする。
5. 地域の季節行事を考慮に入れる。
6. 個々のスカウトの進歩への配慮。同じ目標（たとえば救急法）でも個人の進級課目は違うことに配慮する。

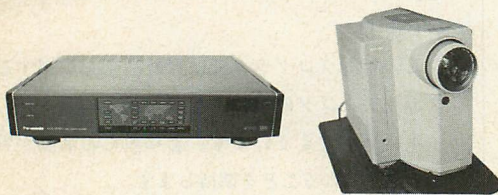
この頁はスカウティング誌連載雑誌別冊付録的なコーナーとして、毎月同じ場所に同じスタイルで掲載します。横組みで左から始まる頁構成は、月毎の予定表などのスタイルを考慮したもので、年間を通じてこの頁のみ本誌の後ろから読み進む形となりますが、ご了承のうえご利用ください。

ありがとうございました

松下電器・ジャムコよりビデオ機器寄贈

松下電器産業株式会社より全世界映像方式対応型のビデオデッキが、また世界の航空機のギャラリー・ラボトリー（厨房・洗面所周り）等を製作している株式会社ジャムコより液晶ビデオプロジェクターが、それぞれのご厚意により日本連盟に寄贈されました。

このことにより、より幅広い映像資料をより多くのスカウト・指導者が諸会議・訓練などの場で利用できるようになりました。ボーイスカウト運動にご理解・ご協力をいただいた両社にお礼申し上げます。



▲松下電器産業(株)寄贈
全世界映像方式対応型ビデオデッキ

▲(株)ジャムコ寄贈
液晶ビデオプロジェクター



<'95-2月号>
ともにつくりあげる
第二次組織拡充5か年
計画
平成6年度より組織をあげ
て取り組んでゆく組織拡充
5か年計画とは…

<'95-1月号>
新春インタビュー
佐波正一理事長に聞く
世界を舞台に活躍してこ
られた理事長に、日本の
青少年をいかに育ててい
くか伺った。

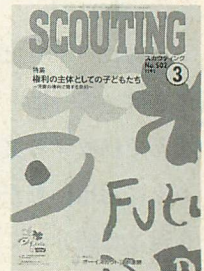
<'94-12月号>
21世紀委員会答申書
を読む
ボーイスカウトの明日を
見つめて



<'95-5月号>
財政基盤の確立に
ついて考える
日本連盟財政の現状や財政
基盤確立の見通しなどにつ
いてグラフや図表をはさみ
ながら簡潔に解説。



<'95-4月号>
阪神大震災
戦後最大の災害となった阪
神大震災。被災地兵庫を含
めた全国のスカウト関係者
の動きを報告。



<'95-3月号>
権利の主体としての
子どもたち
「児童の権利に関する条約」
を理解し、子どもたちの状
況や権利を踏まえた活動を
考えていく

●お詫びと訂正

4月号8頁、阪神大震災で亡くなられた方々の中で、神戸第54団の川野芳彦くん(BS)が無事であったことが確認されました。関係者の方々にご迷惑をおかけしましたことをお詫びし、訂正させていただきます。

また、4月号発行以降に神戸第51団のシニアスカウト小林隆太くんが亡くなられていたことがわかりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

1995年需品カタログに品番の間違ひがありました。訂正をお願いします。

45ページ	(誤)	(正)
① WSシルクタイ グリーン	品番 76719	→ 76051
② WSタイ	品番 76051	→ 76697

●スカウティング誌は再生紙を使っています。貴重な森林資源を守り、自然の恵みに感謝して、今後も緑豊かなスカウティングの教場が維持できるように願っています。

○投稿歓迎

スカウティング誌では、「読者からのたより」「ローバー通信」「活動紹介」、その他皆様の原稿を募集しています。

お寄せいただいた原稿は趣旨を変えずに手を入れさせていただく場合があります。また、掲載できない場合もありますが、原稿・写真はお返しいたしませんのでご了承ください。住所、氏名、加盟登録番号、年齢、電話番号、所属、差し支えなければ自己PR（あなた自身の得意な技術や能力）を明記のうえ日本連盟広報課へ。

〒181東京都三鷹市大沢4-11-10

ボーイスカウト日本連盟広報課宛

ファクシミリでの投稿も受け付けています。

FA X番号0422(32)0010

「阪神大震災」に対する救援活動について

各所からの多大な人的・物的支援、義援金の提供などのおかげをもちまして、被災地では復旧活動を地元県民が中心となって進めていくようになりました。4月からは連盟を通じての奉仕者調整を終了し、今後の奉仕活動は兵庫県内のスカウト関係者と、団または隊・個人レベルでのスカウト兄弟としての交流という形で進めていただいております。救援活動の実施は兵庫連盟内のスカウト関係の知人を通じてお問い合わせ・申し込みをお願いいたします。

なお、日本連盟では引き続き兵庫連盟のスカウトのための義援金募金を行っております。

郵送料変更のお知らせ

四月から月刊誌の郵送料が変更になります。今までは実送料より少し低く設定していましたが、今月より送料を低く設定していただきました。どうぞご了承ください。

(添付の振替用紙をご参照ください)

スカウト	一年予約	三、〇四〇円
スカウティング	一年予約	三、一六四円
両誌	一年予約	五、五八一円

「スカウト」「スカウティング」は、全国各団に一冊お送りしています。回の通信連絡先にお送りしておりますので、住所の誤り、変更がある場合は日連組織部までご連絡下さい。なお、団配布の購読料は、登録料に含まれています。

※本誌のバックナンバーを希望されるときは、はがきで日連広報課までご注文下さい。

需品部
NEWS

ボーイスカウトグッズ

新製品ゾクゾク登場!



■BSAオフィシャル
ジャケット

M 品番36945
L 品番36951
LL 品番36967 各¥9,700



■BSA スヌーピー・ピンバッジ
品番79805 ¥600

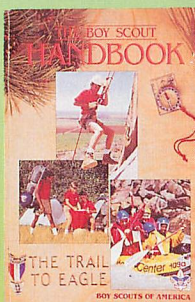
サイズ: 3×3.5cm
かわいいスヌーピーの「ナイス・ジョブ」ピンバッジ。スカウトからリーダーまで大人気。



■BSA Tシャツ (登山)
品番33258 ¥1,700

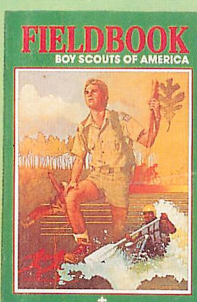


■BSA Tシャツ (ワシ)
品番33242 ¥1,700



■BSA
「ボーイスカウト・ハンドブック」
品番69845 ¥1,000

第10版。622P・A5版変型・フルカラー・英語版。
スカウトに必要な基本的知識の集大成。



■BSA 「フィールドブック」
品番69851 ¥1,500

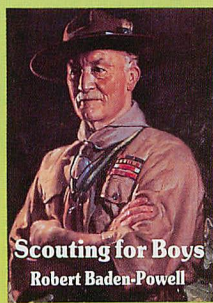
第3版。630P・A5版変型・フルカラー・英語版。
幾百万のスカウトやリーダーの経験に基づいたアウトドア活動の必須情報。



■BSAペーパーウェイト
品番79803 ¥2,000

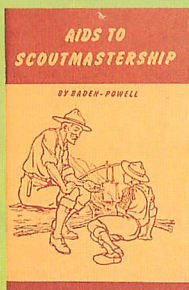


■BSA名刺ホルダー
品番79801 ¥1,200



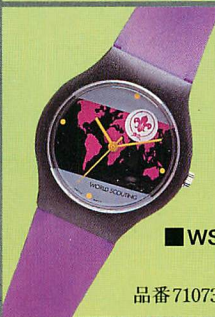
■英国スカウト連盟
「スカウティング・フォア・ボーイズ」
品番69839 ¥2,000

第35版。282P・A5版・英語版。B-P著。
BS活動の原点。B-Pスピリットを原典で。



■カナダボーイスカウト連盟
「エイズ・トゥ・スカウトマスターシップ」
品番69867 ¥800

68P・B5版・英語版。B-Pのスカウト訓練法に関する
隊長のためのガイドブック。スカウティングの古典。



■WSウォッチ
(ワールド)
品番71073 ¥2,900



■WSウォッチ
(クラシック)
品番71089 ¥6,500



① WSシルクタイ
(ワインレッド)
品番76023 ¥3,000



② WSシルクタイ
(グリーン)
品番76051 ¥3,000



③ WSタイ
品番76697 ¥2,500



■JOTAストーリー
品番69817 ¥2,300

40P・B5版変型・英語版。ジャンボリー・オン・
ジ・エアー (JOTA) の35年史。



■WSスポーツタオル
品番76703 ¥1,300

サイズ: 50×100cm コットン。
紫に世界スカウト章エンブレムの刺しゅう。



■WSスポーツバッグ
品番76719 ¥3,000

サイズ: 30×60×30cm 5層式・ショルダーストラップ付。薄紫にレインカラーのトリミング。各国でスカウトや指導者に人気のスポーツ&トラベルバッグです。



■WSトラベルポーチ
品番76731 ¥1,100

サイズ: 18.5×12.5cm 3ツ折・フリ下げ用ヒモ付。キャンプや旅行に最適。パスポート、お金、ペン、クレジットカードなどがゆったり入ります。

※ WSは世界スカウト事務局製、BSAはボーイスカウト・アメリカ連盟製です。

★ 商品の表示価格には消費税は含まれておりません。外税として別途申し受けます。

自分でつくれる、旅プラン。 スケッチブック 北海道



いつ出発する?
出発日、往復の利用空港、利用便、旅行期間を選んで…。

どこに泊まる?
数多い指定ホテルからお好みでチョイス。宿泊日数も自由自在。

何で移動する?
JAL STORYバスやJR、レンタカー、観光タクシーでも。

スカウトインク
昭和33年12月15日 第3種郵便物認可
平成7年6月1日発行 毎月1回1日発行
発行所 **ボーイスカウト日本連盟**
〒181 東京都三鷹市大塚4-1-10
電話 0422(3)15161(代)


北海道だから思い通りに、選ぼう、遊ぼう。

スケッチブックなら、北海道がもっと楽しくなります。
出発日から航空便、ホテル、道内の移動まで、あなたの自由自在。
あなただけの旅をエンジョイしてください。


スケッチブック北海道 基本旅行代金<2泊3日>…**63,800円**より

スケッチブックなら、もっとこんな旅。

カーナビ付きレンタカー
初めての道でも、安心、便利。話題のカーナビゲーションシステムが全車種に付けられるプランです。オープンカーから4WDまで車種も豊富にご用意しました。



自然の中でワゴンキャンピング
ワゴンカーにキャンプ用品のセットを組み込んだレンタカープランも。ご家族で、グループで、北海道の大自然を体いっぱい感じてください。



たとえば<カーナビ付きレンタカープラン2泊3日>**72,830円**より

1日目 新千歳空港→日高ケンタッキーファーム→日高→日勝峠→然別湖泊
2日目 然別湖にて自然体験→ナイタイ高原牧場→三国峠→銀河→流星の滝→層雲峡泊
3日目 層雲峡→旭川廣瀬IC→小樽IC→小樽市内観光(小樽運河・オルゴール堂・北一硝子)→小樽IC→千歳IC→新千歳空港

たとえば<ワゴンキャンピングプラン2泊3日> **86,140円**より

1日目 新千歳空港→昭和新山・有珠山→グリーンステイ洞爺湖オートキャンプ場
2日目 洞爺湖→地球岬→ウトナイ湖サンクチュアリネイチャーセンター→札幌泊
3日目 札幌市内観光→野幌森林公園または国営滝野すずらん丘陵公園→千歳サケのふるさと館→新千歳空港

●出発日：'95.9/27までの毎日 ●表記は3名様参加の場合の東京発大人1名様の旅行代金 ●旅行代金は出発日、参加人数等により異なります。 ●主催：株式会社ジャルストーリー(東京都知事登録国内旅行業 第2072号)〒103 東京都中央区日本橋2-3-4

お問い合わせ・お申し込みは日本航空指定旅行会社または JAL STORY リン・リン・ダイヤル 営業時間9:00~17:30
東日本地区03(3274)2626 中部日本地区052(265)4388 西日本地区06(232)1155へどうぞ。

JAL STORY

詳しい旅行内容、条件などはパンフレットでご確認ください。



定価 ¥190 (送料 ¥60)
振替 00110-1-82610 (振込部)
取引銀行 三和銀行 三和銀行 三和銀行



49 31187 663190